

(様式第 10)

旭医大第 1017 号
平成 29 年 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 吉田 晃敏 (印)

旭川医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東 2 条 1 丁目 1 番 1 号
氏 名	吉田 晃敏

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

旭川医科大学病院

3 所在の場所

〒078-8510	電話 (0166) 65-2111
北海道旭川市緑が丘東 2 条 1 丁目 1 番 1 号	

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 循環器内科 2 腎臓内科 3 呼吸器内科 4 脳神経内科 5 糖尿病内科	
6 内分泌内科 7 消化器内科 8 血液・腫瘍内科	
診療実績	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 心臓外科 2 血管外科 3 呼吸器外科 4 乳腺外科 5 小児外科 6 消化器外科 7 頭頸部外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科 2小児科 3整形外科 4脳神経外科 5皮膚科 6泌尿器科 7産婦人科 8産科 9婦人科 10眼科 11耳鼻咽喉科 12放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 15麻酔科 16救急科

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 歯科口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科 2 病理診断科

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
31床	床	床	床	571床	602床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	294人	115人	386人	看護補助者	46人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	7人	3人	9.4人	理学療法士	11人	臨床検査技師	44人
薬 剤 師	43人	0人	43人	作業療法士	5人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	10人	その他	0人
助 産 師	29人	3人	30.8人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	637人	38人	663.3人	臨床工学士	15人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	28人
歯科衛生士	1人	0人	1人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	109人
管理栄養士	8人	0人	8人	診療放射線技師	34人	その他の職員	43人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	38人	眼科専門医	13人
外科専門医	29人	耳鼻咽喉科専門医	9人
精神科専門医	4人	放射線科専門医	11人
小児科専門医	18人	脳神経外科専門医	8人
皮膚科専門医	11人	整形外科専門医	17人
泌尿器科専門医	7人	麻酔科専門医	21人
産婦人科専門医	14人	救急科専門医	9人
		合 計	209人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (平田 哲) 任命年月日 平成 23 年 7 月 1 日

平成23年7月1日から平成27年6月30日までの期間、副病院長兼医療安全管理部長に就任。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	515.32 人	7.04 人	522.36 人
1日当たり平均外来患者数	1,497.75 人	49.52 人	1,547.27 人
1日当たり平均調剤数	715.7 剤		
必要医師数	140人		
必要歯科医師数	1人		
必要薬剤師数	18人		
必要(准)看護師数	314人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	579 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	病床数	19床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	47 m ²	病床数	4床	
	[移動式の場合]	台数	6台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床積	182 m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	388 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 総合血液学検査装置 ADVIA2120			
細菌検査室	80 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動細菌検査システム MIC2000			
病理検査室	408 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 生物顕微鏡 バーチャルスライド装置			
病理解剖室	93 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 床埋込式デジタル遺体計量器 SH-FD			
研究室	846 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動免疫染色装置			
講義室	624 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	室数	3室	収容定員	553人
図書室	3,514m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	室数	11室	蔵書数	16万冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	85.3 %	逆紹介率	72.1 %
算出根拠	A：紹介患者の数			11,445 人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数			10,625 人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数			1,128 人
	D：初診の患者の数			14,734 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
子野 日政 昭	市立旭川病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	(注) 1.
黒川 伸一	旭川大学		法律に関する識見を有する者	無	(注) 1.
浅川 哲弥	北海道教育大学旭川校		医療を受ける者 その他の医療従事者以外の者	無	(注) 2.

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法 本学ホームページに掲載している。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	8人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法	4人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ロボット支援下直腸切除・切断術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 直腸癌に対する腹腔鏡手術の適応を有する症例を対象とし、手術支援ロボットda Vinci S Surgical Systemを用いた直腸癌に対する直腸切除・切断術である。 手術支援ロボットは、ストレスの少ないより複雑で細やかな手術手技を可能としており、また三次元による正確な画像情報を取得できるため、より安全かつ侵襲の少ない手術が可能である。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数		疾患名		患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	2	56	ベーチェット病		78
2	筋萎縮性側索硬化症	3	57	特発性拡張型心筋症		56
3	脊髄性筋萎縮症		58	肥大型心筋症		116
4	原発性側索硬化症		59	拘束型心筋症		
5	進行性核上性麻痺	3	60	再生不良性貧血		20
6	パーキンソン病	122	61	自己免疫性溶血性貧血		2
7	大脳皮質基底核変性症	1	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症		1
8	ハンチントン病		63	特発性血小板減少性紫斑病		37
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病		
10	シャルコー・マリー・トウス病	2	65	原発性免疫不全症候群		6
11	重症筋無力症	39	66	IgA腎症		22
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎		13
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	50	68	黄色靱帯骨化症		4
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	9	69	後縦靱帯骨化症		78
15	封入体筋炎	3	70	広範脊柱管狭窄症		
16	クドウ・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症		76
17	多系統萎縮症	22	72	下垂体性ADH分泌異常症		18
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	37	73	下垂体性TSH分泌亢進症		
19	ライソゾーム病	6	74	下垂体性PRL分泌亢進症		6
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病		5
21	ミトコンドリア病	3	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症		1
22	もやもや病	15	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症		17
23	プリオン病		78	下垂体前葉機能低下症		37
24	亜急性硬化性全脳炎	1	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)		
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症		
26	HTLV-1関連脊髄症	4	81	先天性副腎皮質酵素欠損症		7
27	特発性基底核石灰化症		82	先天性副腎低形成症		
28	全身性アミロイドーシス	11	83	アジソン病		
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス		121
30	遠位型ミオパチー		85	特発性間質性肺炎		12
31	ペスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症		9
32	自己貪食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症		
33	シュワルツ・ヤンベル症候群		88	慢性血栓性肺高血圧症		10
34	神経線維腫症	10	89	リンパ脈管筋腫症		1
35	天疱瘡	13	90	網膜色素変性症		41
36	表皮水疱症	3	91	バッド・キアリ症候群		
37	膿疱性乾癬(汎発型)	16	92	特発性門脈圧亢進症		
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変		65
39	中毒性表皮壊死症		94	原発性硬化性胆管炎		3
40	高安動脈炎	24	95	自己免疫性肝炎		16
41	巨細胞性動脈炎		96	クローン病		164
42	結節性多発動脈炎	20	97	潰瘍性大腸炎		232
43	顕微鏡的多発血管炎	37	98	好酸球性消化管疾患		3
44	多発血管炎性肉芽腫症	26	99	慢性特発性偽性腸閉塞症		
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	10	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症		
46	悪性関節リウマチ	11	101	腸管神経節細胞減少症		
47	パージャール病	41	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群		
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103	CFC症候群		
49	全身性エリテマトーデス	238	104	コステロ症候群		
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	74	105	チャージ症候群		
51	全身性強皮症	121	106	クリオピリン関連周期熱症候群		
52	混合性結合組織病	25	107	全身型若年性特発性関節炎		
53	シェーグレン症候群	173	108	TNF受容体関連周期性症候群		
54	成人スチル病	5	109	非典型性溶血性尿毒症症候群		
55	再発性多発軟骨炎	3	110	ブラウ症候群		

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー		161	家族性良性慢性天疱瘡	
112	マリネスコ・シェーグレン症候群		162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	4
113	筋ジストロフィー	3	163	特発性後天性全身性無汗症	3
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164	眼皮皮膚白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺		165	肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎		166	弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症		167	マルファン症候群	1
118	脊髄髄膜瘤		168	エーラス・ダンロス症候群	1
119	アイザックス症候群		169	メンケス病	
120	遺伝性ジストニア		170	オクシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症		171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症		172	低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症		173	VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症		174	那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症		175	ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群		176	コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症		177	有馬症候群	
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎		178	モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症		179	ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症		180	ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病		181	クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺		182	アペール症候群	
133	メビウス症候群		183	ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		184	アントレー・ピクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群		185	コフィン・シリス症候群	
136	片側巨脳症		186	ロスムンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成		187	歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症		188	多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症		189	無脾症候群	
140	ドラベ症候群		190	鰓耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		191	ウェルナー症候群	
142	ミオクロニー欠伸てんかん		192	コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193	プラダー・ウィリ症候群	
144	レノックス・ガストー症候群	1	194	ソトス症候群	
145	ウエスト症候群		195	ヌーナン症候群	
146	大田原症候群		196	ヤング・シンプソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症		197	1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198	4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		199	5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎		201	アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群		202	スミス・マギニス症候群	
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎		203	22q11.2欠失症候群	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症		204	エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群		205	脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群	1	206	脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群		207	総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症		208	修正大血管転位症	
159	色素性乾皮症		209	完全大血管転位症	
160	先天性魚鱗癬		210	単心室症	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群		259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症		260	シトステロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262	原発性高カイロミクロン血症	
215	ファロー四徴症		263	脳腫黄色腫症	
216	両大血管右室起始症	1	264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病		265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群		266	家族性地中海熱	3
219	ギャロウェイ・モワト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎	2	268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎		269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群	22	270	慢性再発性多発性骨髄炎	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎		271	強直性脊椎炎	4
224	紫斑病性腎炎	2	272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	1
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	2	274	骨形成不全症	
227	オスラー病	2	275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎		276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症		279	巨大静脈奇形(頸部口咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症		283	後天性赤芽球癆	
236	偽性副甲状腺機能低下症		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンconi貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症		286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症		288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型		289	クロンカイト・カナダ症候群	
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	
244	メーブルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症		294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性膀胱炎	
251	尿素サイクル異常症		299	嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	3
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	
254	ポルフィリン症		302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシュヤー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	2

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病		319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	
308	進行性白質脳症		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
309	進行性ミオクローヌステんかん		321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群		322	β ーケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症		324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症		326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症		327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症		330	先天性気管狭窄症	

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯A000 2 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・A234-2 感染防止対策加算1
・歯A000 注9 歯科外来診療環境体制加算	・A234-2 注2 感染防止対策地域連携加算
・歯A000 注10 歯科診療特別対応連携加算	・A234-3 患者サポート体制充実加算
・A104 特定機能病院入院基本料(一般7:1、精神13:1)	・A236 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・A204-2 臨床研修病院入院診療加算(基幹型病院)	・A236-2 ハイリスク妊娠管理加算
・歯A204-2 臨床研修病院入院診療加算 (歯科、単独型又は管理型病院)	・A237 ハイリスク分娩管理加算
・A205 救急医療管理加算	・A242 呼吸ケアチーム加算
・A205-2 超急性期脳卒中加算	・A243 後発医薬品使用体制加算1
・A205-3 妊産婦緊急搬送入院加算	・A244 病棟薬剤業務実施加算1
・A207 診療録管理体制加算2	・A244 病棟薬剤業務実施加算2
・A207-2 医師事務作業補助体制加算1 50対1補助体制加算	・A245 データ提出加算2
・A207-3 急性期看護補助体制加算 25対1 (補助者5割未満)	・A246 退院支援加算1
・A207-4 看護職員夜間12対1配置加算2	・A246 退院支援加算3
・A208 注1 乳幼児加算	・A246 注4 地域連携診療計画加算
・A208 注2 幼児加算	・A248 精神疾患診療体制加算
・A212 注1 超重症児(者)入院診療加算	・A300 救命救急入院料1
・A212 注2 準超重症児(者)入院診療加算	・A300 注3 充実段階A評価加算
・A214 看護補助加算2 50対1	・A301 特定集中治療室管理料1
・A219 療養環境加算	・A301 注2 小児加算
・A221 重症者等療養環境特別加算	・A302 新生児特定集中治療室管理料1
・A221-2 小児療養環境特別加算	・A303-2 新生児治療回復室入院医療管理料
・A224 無菌治療室管理加算1	・A307 小児入院医療管理料2
・A226-2 緩和ケア診療加算	・A307 注2 プレイルーム加算
・A230-3 精神科身体合併症管理加算	・
・A232 がん診療連携拠点病院加算	・
・A234 医療安全対策加算1	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・B001 3 注1 悪性腫瘍特異物質治療管理料 尿中BTA検査	・B005-8 注1 肝炎インターフェロン治療計画料
・B001 3 注2 悪性腫瘍特異物質治療管理料 腫瘍マーカー検査	・B005-9 排尿自立指導料
・B001 4 注 小児特定疾患カウンセリング料	・B008 注1 薬剤管理指導料
・B001 5 注1 小児科療養指導料	・B009 注15 診療情報提供料(I)
・B001 9 注 外来栄養食事指導料	・B009-2 電子的診療情報評価料
・B001 10 注1 入院栄養食事指導料1	・B011-4 注1 医療機器安全管理料1
・B001 11 注 集団栄養食事指導料	・B011-4 注2 医療機器安全管理料2
・B001 12 注4 植込型除細動器移行期加算	・歯B018 医療機器安全管理料(歯科)
・B001 14 注1 高度難聴指導管理料	・歯B004-6 注1 歯科治療総合医療管理料(I)
・B001 16 注1 喘息治療管理料1	・歯B004-6-2 注1 歯科治療総合医療管理料(II)
・B001 16 注3 喘息治療管理料2	・C005 注2 在宅患者訪問看護・指導料
・B001 18 注1 小児悪性腫瘍患者指導管理料	・C005-1-2 注2 同一建物居住者訪問看護・指導料
・B001 20 注1 糖尿病合併症管理料	・C152-2 注1 持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
・B001 22 がん性疼痛緩和指導管理料	・C013 注1 在宅患者訪問褥瘡管理指導料
・B001 23 注1 がん患者指導管理料1	・D006-4 注 遺伝学的検査
・B001 23 注2 がん患者指導管理料2	・D006-2 造血管腫瘍遺伝子検査
・B001 23 注3 がん患者指導管理料3	・D023 7 注 HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・B001 24 注1 外来緩和ケア管理料	・D026 検体検査管理加算(IV)
・B001 27 注1 糖尿病透析予防指導管理料	・D026 遺伝カウンセリング加算
・B001-2-3 注 乳幼児育児栄養指導料	・D206 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・B001-2-5 注 院内トリアージ実施料	・D210-3 植込型心電図検査
・B001-2-7 注1 外来リハビリテーション診療料	・D211-3 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・B001-2-8 注1 外来放射線照射診療料	・D215 胎児心エコー法
・B005-6 注1 がん治療連携計画策定料	・D225-4 ヘッドアップティルト試験
・B005-6-3 注1 がん治療連携管理料1	・D231-2 皮下連続式グルコース測定
・B005-6-4 外来がん患者在宅連携指導料	・D235-2 長期継続頭蓋内脳波検査

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・D238 1 注2 脳波検査判断料1	・H002 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・D239-3 神経学的検査	・H002 注3 初期加算
・D244-2 補聴器適合検査	・H003 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・D270-2 ロービジョン検査判断料	・H003 注3 初期加算
・D282-3 1 コンタクトレンズ検査料1	・H007-2、歯H003 がん患者リハビリテーション料
・D291-2 小児食物アレルギー負荷検査	・H007-4 リンパ浮腫複合的治療料
・D291-3 内服・点滴誘発試験	・歯H001-3 歯科口腔リハビリテーション料2
・D409-2 センチネルリンパ節生検	・I013 注2 抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・D415 注2 CT透視下気管支鏡検査加算	・I014 医療保護入院等診療料
・E通則4 画像診断管理加算1	・J通則5 医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1
・E通則6、7 遠隔画像診断(受信側)	・J通則5 医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1
・E101-2 ポジトロン断層撮影	・J通則5 医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1
・E101-3 ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・J007-2 硬膜外自家血注入
・E200 コンピューター断層撮影(CT撮影)イ〜ロ	・J038 注9 透析液水質確保加算2
・E200 注4 冠動脈CT撮影加算	・J045-2 一酸化窒素吸入療法
・E200 注7 大腸CT撮影加算	・J070-4 磁気による膀胱等刺激法
・E202 磁気共鳴コンピューター断層撮影(MRI撮影)1,2	・歯M001 注5 歯M001-2 注1 う蝕歯無痛的窩洞形成加算
・E202 注4 心臓MRI撮影加算	・歯科J063 注5 手術時歯根面レーザー応用加算
・F100 注7、F400 注5 抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・歯M029 注3 歯科技工加算1
・G通則6、歯G通則6 外来化学療法加算1	・歯M029 注4 歯科技工加算2
・G020 無菌製剤処理料	・K007、歯J104-2 悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
・H000 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・K022 1 組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。) 一次再建
・H000 注3 初期加算	・K059 4 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・H001 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・K169 注1 脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・H001 注3 初期加算	・K181、K181-2 脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術
・H001-2 1 廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ)	・K190、K190-2 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・K254 1 治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))	・K615-2 経皮的動脈遮断術
・K260-2 羊膜移植術	・K627-3 腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術
・K268 5 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・K636-2 ダメージコントロール手術
・K280-2 網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・K677 1 胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・K281-2 網膜再建術	・K695-2 腹腔鏡下肝切除術
・K328 人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・K697-5 生体部分肝移植術
・K340-7 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・K702-2 腹腔鏡下腭体尾部腫瘍切除術
・K461-2 内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術	・K721-4 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・K462-2 内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	・K768 体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・K464-2 内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・K773-5 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・K476 注2 乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・K800-3 膀胱水圧拡張術
・K476 8 乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの))	・K803-2 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・K476 9 乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの)	・K803-3 腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
・K476-4 ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後) 一次一期的再建	・K823-5 人工尿道括約筋植込・置換術
・K514 10 肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・K843-4 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・K546 経皮的冠動脈形成術	・K879-2 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・K549 経皮的冠動脈ステント留置術	・K手術通則 12 医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
・K555-2 経皮的動脈弁置換術⇒経カテーテル大動脈弁置換術	・K手術通則 12 医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
・K597、K597-2 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・K手術通則 12 医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1
・K597-3、K597-4 植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・K664 医科点数表第10部手術の通則の16に掲げる手術
・K598、K598-2 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・K手術通則 医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術
・K599、K599-2 植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術	・K920-2、歯J200-2 輸血管理料 I
・K599-3、K599-4 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・K920-2 注3 貯血式自己血輸血管理体制加算
・K599-5 経静脈電極除去術	・K939-3 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・K600 大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・K939-5 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・K603 補助人工心臓	・歯J063 5 歯周組織再生誘導手術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・腹腔鏡下子宮体がん根治術	・
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	・
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	・
	・
	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	8回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 24 例 / 剖検率 7.5 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
橋渡し研究加速ネットワークプログラム(オール北海道先進医学・医療拠点形成)	吉田 晃敏	学長	152,326,948	補委	日本医療研究開発機構(AMED)
視角からコミュニケーションへ:皮質脳波法で読み解く大脳神経回路の情報流	鎌田 恭輔	脳神経外科学講座	600,000	補委	文部科学省(科研費)(補助金分)
臨床標本遺伝子解析結果に基づいた静脈グラフト内膜肥厚予測のバイオマーカー開発	東 信良	外科学講座(血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野)	1,500,000	補委	文部科学省(科研費)(補助金分)
ハイブリッド技術とリアルタイム処理による機能ダイナミクスの解明	鎌田 恭輔	脳神経外科学講座	3,500,000	補委	文部科学省(科研費)(補助金分)
未来医療にむけた臓器機能維持、再生、評価のための肝臓内流動特性の解明	松野 直徒	外科学講座(消化器病態外科学分野)	1,000,000	補委	文部科学省(科研費)(補助金分)
鼻性NK/T細胞リンパ腫におけるEBウイルス関連分子を標的とした診断治療法の開発	原渕 保明	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	4,200,000	補委	文部科学省(科研費)(補助金分)
主代謝物の脳移行制御を目指したパーキンソン病治療薬の個別化投与設計法の開発	山本 譲	薬剤部	540,000	補委	文部科学省(科研費)(補助金分)
QRコードを利用した院外処方箋への検査値表示システムの構築と有用性の評価	安達 知輝	薬剤部	360,000	補委	文部科学省(科研費)(補助金分)
ヒトプール血清を用いた外部精度管理試料の作成による外部精度管理事業の推進	新関 紀康	臨床検査・輸血部	570,000	補委	文部科学省(科研費)(補助金分)
重症敗血症に対する高度医療管理機器セブザイリス使用における的確な凝固線溶系検査の確立	宗万 孝次	手術部	570,000	補委	文部科学省(科研費)(補助金分)
質量分析装置バイテックMS測定における抗酸菌前処理の検証と同等精度の向上化	渡 智久	臨床検査・輸血部	570,000	補委	文部科学省(科研費)(補助金分)
インテリジェントモバイルデバイスによる脊柱側弯症発見体制の構築	今井 充	整形外科科学講座	570,000	補委	文部科学省(科研費)(補助金分)
助産実践能力習熟段階レベルⅢに相応する助産師の経験学習と他者支援	平塚 志保	看護部	570,000	補委	文部科学省(科研費)(補助金分)
機能テンプレートによる高速デコーディング/フィードバック融合BMIの開発	鎌田 恭輔	脳神経外科学講座	9,000,000	補委	文部科学省(科研費)(補助金分)
腸内細菌由来抗腫瘍活性物質の同定とその認識機構および細胞シグナル活性化機構の解明	小西 弘晃	内科学講座(消化器・血液腫瘍制御内科学分野)	1,200,000	補委	文部科学省(科研費)(補助金分)
先天性下垂体機能低下症の新たな発症機構の解明:PIT-1β変異の機能解析	鈴木 滋	小児科学講座	1,100,000	補委	文部科学省(科研費)(補助金分)
免疫チェックポイント分子PD-L1を標的とした頭頸部扁平上皮癌に対する免疫治療	平田 結	耳鼻咽喉科	1,100,000	補委	文部科学省(科研費)(補助金分)
皮膚・シヤ障害における角層デスモゾームの異常の解析と治療への応用	山本 明美	皮膚科学講座	800,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
臨床標本遺伝子解析結果に基づいた静脈グラフト内膜肥厚予測のバイオマーカー開発	東 信良	外科学講座(血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野)	300,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
LPS、炎症性サイトカインと末梢CRF受容体サブタイプの消化管機能における相関	野津 司	地域医療教育学講座	700,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
脳内オレキシンシグナル低下はIBSの病態を引き起こす	奥村 利勝	内科学講座(消化器・血液腫瘍制御内科学分野)	900,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
腸炎モデルおよびヒト初代培養細胞を用いた菌由来活性物質の腸管保護メカニズムの解析	藤谷 幹浩	内科学講座(消化器・血液腫瘍制御内科学分野)	400,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
ハイブリッド・コンディショニングによる心筋救済法の開発とHSPを介する機序の解明	竹内 利治	第一内科	600,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
急性腎障害に対する糖代謝の制御を介した尿細管部位特異的な治療を目指して	藤野 貴行	第一内科	300,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
膠原病に伴う肺高血圧症におけるIPAS/HIF-3αシグナルの役割の解明	牧野 雄一	内科学講座(病態代謝内科学分野)	900,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)

糖尿病、慢性透析が移植前静脈グラフトに与える影響の解析	内田 恒	外科学講座(血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野)	1,100,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
麻酔プレコンディショニングがミトコンドリアイオンチャンネルに与える影響	丹保 亜希仁	救急医学講座	1,000,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
逆行性遺伝学手法を用いた無精子症原因遺伝子群の解析	千石 一雄	産婦人科学講座	800,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
鼻性NK/T細胞リンパ腫におけるCD70に対する分子標的治療の検討	岸部 幹	耳鼻咽喉科	800,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
声帯麻痺後の再運動化による喉頭機能の再生	片田 彰博	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	900,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
扁桃病巣疾患における口蓋扁桃摘出術の基礎・臨床的エビデンスの構築	高原 幹	耳鼻咽喉科	1,200,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
糖尿病網膜症における内因性分泌型AGEs受容体が及ぼす網膜循環への影響の解析	佐藤 栄一	眼科	145,180	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
ロービジョン患者の視覚機能に及ぼす光の影響	石子 智士	医工連携総研講座	1,500,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
毛細血管幹細胞におけるAPE1の役割解明—高性能化幹細胞調整法の開発にむけて—	山内 敦司	第一内科	900,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
機能的電気刺激を用いた麻痺声帯再運動化の研究	野村 研一郎	耳鼻咽喉科	500,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
NAFLDにおけるプロバイオティクスの脂肪酸代謝作用ポイントの同定と治療応用	澤田 康司	内科学講座(消化器・血液腫瘍制御内科学分野)	500,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
フォールディング異常症治療薬を目指した化学シャペロンの構造活性相関研究	奥田 勝博	法医学講座	1,300,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
各種皮膚疾患に対するエンジュレクチンの治療薬としての可能性に関する検討	本間 大	皮膚科学講座	1,400,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
KRAS遺伝子変異肺癌におけるNamt阻害による抗腫瘍効果とその作用機序の検証	大崎 能伸	呼吸器センター	800,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
血液を利用したMolecular Biopsyによる肺癌薬剤耐性のモニタリング	丹野 幸恵	呼吸器センター	1,100,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
高血圧性腎障害における血管周細胞のNF- κ B シグナルの役割解明	中川 直樹	第一内科	1,000,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
Metallothionein3の糖尿病性腎症における役割の解明	滝山 由美	内科学講座(病態代謝内科学分野)	1,500,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
受容体結合活性に基づくグルカゴン測定法によって糖尿病を再検証する。	藤田 征弘	内科学講座(病態代謝内科学分野)	1,300,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
血清フェリチンによる鉄代謝調節因子ヘプジン発現調節を介した生体鉄感知機構の解明	生田 克哉	第三内科	1,500,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
ボルフィリン薬の効果増強を用いた光線力学的抗菌療法の新規開発と応用	豊嶋 恵理	感染制御部	1,300,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
小腸移植における高圧ガス保存法の応用:再灌流障害軽減と免疫抑制作用の可能性	松野 直徒	外科学講座(消化器病態外科学分野)	50,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
HGF/c-Metシグナル活性化による移植腫瘍アポトーシス制御の試み	川原 敏靖	外科(消化器)	700,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
リンパ管遺伝子細胞治療によるリンパ浮腫治療法の開発	齊藤 幸裕	外科(血管・呼吸・腫瘍)	1,200,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
胸部大動脈外科における出血傾向の制御—より安全な手術を目指して—	紙谷 寛之	外科学講座(心臓大血管外科学分野)	1,300,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
光線力学的手法を応用した胸部悪性病変とリンパ節転移に対する新たな診断法の開発	北田 正博	乳腺疾患センター	500,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
ArterialSpinLabelingによる言語・記憶機能の画像化と検証	広島 覚	脳神経外科学講座	1,000,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
心臓手術患者における塩酸ランジオロールの薬物動態研究	國澤 卓之	麻酔・蘇生学講座	700,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
緑内障濾過手術後濾過胞瘻機序の解明と新しい術後管理方法の確立	川井 基史	眼科	1,300,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)

敗血症の予後予測因子とβ遮断薬の有効性と機序の解明	岡田 基	救急医学講座	800,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
過剰鉄が誘導する2-HG・エピジェネティクス異常を介した血液腫瘍の新たな発症機構	山本 昌代	第三内科	1,200,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
肝癌由来新規ヘプシジンバリアントの担癌鉄代謝関与とバイオマーカーとしての有用性	土岐 康通	第三内科	1,300,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
細胞外小胞体EVを介した長鎖機能性RNAによる癌進展制御機構の解明	高橋 賢治	第二内科	1,500,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
パレット食道癌の発生母地の差異に基づく発症機構の解明と新規治療法の開発	野村 好紀	地域がん診療連携講座	1,700,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
エクソソーム内マイクロRNAおよびRNA結合蛋白を介した癌進展メカニズムの解明	後藤 拓磨	第三内科	1,900,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
消化管線維化メカニズムの解析と腸内細菌由来抗線維化物質による新規治療開発	嘉島 伸	第三内科	600,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
腸上皮インテグリンによる菌由来物質認識機構を介した新規宿主-細菌相互作用の解明	田中 一之	第三内科	1,200,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
血管新生における新規因子Ninjurin1の機能解明	鹿原 真樹	心血管再生・先端医療開発講座	1,500,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
3D培養表皮モデルを用いたRIP1の機能解析-‘角化’はネクロプトーシスか?-	齋藤 奈央	皮膚科	1,200,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
頭頸部癌転注患者に対するプラチナイメージングへの挑戦	佐々木 智章	放射線科	1,500,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
α7アセチルコリン受容体が筋弛緩抵抗性に与える影響とその改善	岩崎 肇	麻酔科蘇生科	800,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
ミトコンドリアのfission・fusionが神経障害性疼痛に及ぼす影響の検討	神田 浩嗣	麻酔科蘇生科	800,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
炎症性サイトカインによる筋萎縮に対しα7アセチルコリン受容体刺激が与える影響	笹川 智貴	麻酔・蘇生学講座	800,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
頭頸部悪性腫瘍に対するpoly-ICと抗PD-L1抗体を併用した免疫療法の開発	長門 利純	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,400,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
鼻性NK/T細胞リンパ腫におけるIAPファミリーの発現	上田 征吾	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	700,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
ドップラーOCTを用いたBRVOの病態解明と新規治療法の確立	谷 智文	眼科	1,200,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
マイクログリアの新規接着因子Ninjurin1を標的とした糖尿病網膜症の病態解明	下内 昭人	眼科学講座	1,200,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
新規アディポカインDPP4に着目した糖尿病網膜症の病態解明と治療法の確立	大野 晋治	眼科学講座	900,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
新規パーキンソン病進行抑制薬開発の非臨床POC試験	田崎 嘉一	薬剤部	1,700,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
がん分子標的薬の代謝動態特性と感受性の個人差要因解明に基づく個別化投与設計	福土 将秀	薬剤部	900,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
危険ドラッグの脳内取込み様式と脳内報償系における毒性形成機構の神経科学的解明	清水 恵子	法医学講座	1,300,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
口腔内細菌およびプロバイオティクス由来活性物質による新規食道癌予防・治療法の開発	盛一 健太郎	内科学講座(消化器・血液腫瘍制御内科学分野)	800,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
リボソーム誘導MDSCに発現するB7-H3分子誘導機序とその免疫抑制効果への関与	東 寛	小児科学講座	1,900,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
ニコチンによる表皮アセチルコリン受容体の活性化は掌跖膿疱症の発症に関与するのか?	岸部 麻里	皮膚科	1,200,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
新しい脳内ドバミントランスポーターイメージ解析システムの開発	沖崎 貴琢	放射線医学講座	700,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
重症虚血肢の潰瘍病変における新たな末梢血流指標の確立と臨床実用化に関する研究	赤坂 和美	臨床検査・輸血部	3,000,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
超低磁場MRIの開発と分子イメージング技術を用いた頭蓋内疾患への応用基礎研究	露口 尚弘	脳神経外科学講座	1,800,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)

カプセル型センサデレメーターを用いた膀胱内圧リアルタイム連続監視装置の開発	松本 成史	臨床研究支援センター	2,400,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
次世代シーケンサーによるヒト男性不妊症及び不育症の原因遺伝子同定	宮本 敏伸	産科婦人科	1,400,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
FGF21を標的とした新たな糖尿病網膜症治療の確立	大前 恒明	眼科	1,400,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
情報公開が進まない中小規模民間病院に着目した現状把握と存続をかけた戦略モデル構築	谷祐児	経営企画部	1,600,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
薬物の動態特性および薬物間相互作用を考慮した中枢・心臓毒性モデルの構築	奥田 勝博	法医学講座	100,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
薬物の動態特性および薬物間相互作用を考慮した中枢・心臓毒性モデルの構築	清水 恵子	法医学講座	100,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
子どもをもつがん患者への支援モデルの開発	阿部 泰之	緩和ケア診療部	80,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
NAFLD鉄過剰の網羅的遺伝子発現解析を用いた疾患メカニズムと治療標的分子の探索	長谷部 拓夢	第三内科	1,500,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
消化管機能におけるプロスタグランジンI2の役割解明と新規IBS治療薬への挑戦	桑井 志麻	総合診療部	1,500,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
非アルコール性脂肪性肝疾患における変異型蛋白質PTPRD R995Cの機能解析	中嶋 駿介	救急科	500,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
short-form GIPの測定系の確立による分泌機構と生理学的意義の解明	竹田 安孝	第二内科	800,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
新生児糖尿病の遺伝子解析ならびにグルコアルブミン有用性の検討	古谷 曜子	小児科	1,200,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
心臓大血管手術における術中眼底血流量と脳循環動態との関連性	木村 文昭	外科学講座(心臓大血管外科学分野)	1,300,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
自家静脈グラフトにおける弁部内膜肥厚発生メカニズムの解明	菊地 信介	外科学講座(血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野)	1,600,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
難治性疼痛に対する新しい遺伝子治療法の基礎的検討	神田 恵	麻酔科蘇生科	1,400,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
頭頸部癌に対する分子標的薬を中心としたアジュバントによる免疫療法の開発	熊井 琢美	頭頸部癌先端的診断・治療学講座	2,800,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
流体力学的アプローチによる瞬目時摩擦刺激に対する角膜上皮細胞の応答	宇都宮 嗣了	眼科	2,200,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
D-OCT血流計による網膜Neurovascular Unitの評価と臨床応用	善岡 尊文	眼科	1,900,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
後眼部血流と緑内障の病態の関連性の解明	中林 征吾	眼科	1,200,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
放射性ヨード治療における唾液腺障害の早期予測とアビセラビーによる予防効果の解明	中山 理寛	放射線科	1,200,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
脳皮質脳波および誘発電位を用いたリアルタイム脳機能ネットワーク診断	小川 博司	脳神経外科学講座	1,500,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
糖尿病性網膜症・下肢壊疽等の総合的な重症度評価の作成と合併症管理手法に関する研究	羽田 勝計	内科学講座(病態代謝内科学分野)	7,690,000	補委	厚生労働省(厚労科研)
特発性大腿骨頭壊死症の疫学調査・診断基準・重症度分類の改訂と診療ガイドライン策定を目指した大規模多施設研究	伊藤 浩	整形外科科学講座	200,000	補委	厚生労働省(厚労科研)
副腎ホルモン産生異常に関する調査研究	棚橋 祐典	小児科学講座	300,000	補委	厚生労働省(厚労科研)
小児ビタミンD欠乏症の実態把握と発症率の推定	棚橋 祐典	小児科学講座	250,000	補委	厚生労働省(厚労科研)
カーニー複合に関する疫学調査と診断基準の普及に向けた調査研究	棚橋 祐典	小児科学講座	300,000	補委	厚生労働省(厚労科研)
備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の実用化を目指す研究	東 寛	小児科学講座	2,364,012	補委	日本医療研究開発機構(AMED)
末梢型肺がんに対する光線力学的治療に関する臨床研究	大崎 能伸	呼吸器センター	2,000,000	補委	日本医療研究開発機構(AMED)

小計28件

多施設共同研究による肝移植後肝炎ウイルス新規治療の確立と標準化	古川 博之	外科学講座(消化器病態外科学分野)	230,770	補 委	日本医療研究開発機構(AMED)
臓器移植後成績向上のための、脳死臓器提供におけるドナー評価・管理システム・ガイドラインの作成	古川 博之	外科学講座(消化器病態外科学分野)	231,000	補 委	日本医療研究開発機構(AMED)
母子感染の実態調査把握及び検査・治療に関する研究	古谷野 伸	小児科学講座	630,000	補 委	日本医療研究開発機構(AMED)
多系統萎縮症の自然歴とその修飾因子に関する研究	片山 隆行	第一内科	300,000	補 委	日本医療研究開発機構(AMED)
切除可能肺癌に対する術前治療としてのS-1併用放射線療法とゲムシタピン+S-1併用療法のランダム化第Ⅱ相試験(JASPAC04)	古川 博之	外科学講座(消化器病態外科学分野)	32,400	補 委	公益財団法人静岡県産業振興財団
視機能を評価し機能回復を促す機器の開発・事業化(AMED医工連携事業化推進事業 27-028)	石子 智士	医工連携総研講座	3,630,660	補 委	公益財団法人科学技術交流財団
不妊・不育症患者の実態と生殖補助医療技術による妊孕性向上に関する研究	千石 一雄	産婦人科学講座	802,740	補 委	北海道
エイズ診療向上に関する調査研究	大崎 能伸	感染制御部	3,892,000	補 委	北海道
進行悪性黒色腫に対するニボルマブの有効性評価に関する観察研究-CREATIVE-(研究略称名:CSPOR-melanoma)	上原 治朗	皮膚科学講座	21,600	補 委	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
臓器移植後成績向上のための、脳死臓器提供におけるドナー評価・管理システム・ガイドラインの作成	古川 博之	外科学講座(消化器病態外科学分野)	300,300	補 委	国立循環器病研究センター
希少難治性脳脊髄疾患の歩行障害に対する生体電位駆動型下肢装着型補助ロボット(HAL-HN01)を用いた新たな治療実用化のための多施設共同医師主導試験の実施研	高草木 薫	脳機能医工学研究センター	520,000	補 委	独立行政法人国立病院機構新潟病院

小計11件

合計120件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Aonuma T, Takehara N, Maruyama K , et al.	第一内科	Apoptosis-Resistant Cardiac Progenitor Cells Modified With Apurinic/Apyrimidinic Endonuclease/Redox Factor 1 Gene Overexpression Regulate Cardiac Repair After Myocardial Infarction.	Stem Cells Transl Med. 2016 Aug; 5: 1067-78	Original Article
2	Maruyama K , Nakagawa N , Saito E , et al.	第一内科	Malnutrition, renal dysfunction and left ventricular hypertrophy synergistically increase the long-term incidence of cardiovascular events.	Hypertens Res. 2016 Sep; 39: 633-9	Original Article
3	Fujino T , Hasebe N	第一内科	Alteration of histone H3K4 methylation in glomerular podocytes associated with proteinuria in patients with membranous nephropathy.	BMC Nephrol. 2016 Nov; 17: 179	Original Article
4	Nakagawa N , Barron L , Gomez IG , et al.	第一内科	Pentraxin-2 suppresses c-Jun/AP-1 signaling to inhibit progressive fibrotic disease.	JCI Insight. 2016 Dec; 1 :e87446	Original Article
5	Toki Y, Sasaki K, Tanaka H et al.	第三内科	A selective splicing variant of hepcidin mRNA in hepatocellular carcinoma cell lines.	Biochem Biophys Res Commun. 2016 Aug; 476(4):501-507	Original Article
6	Sugiyama Y, Kawamoto T, Sasajima J et al.	第三内科	A Rare Case of Epidermoid Cyst in the Pancreatic Tail Invaginated from the Splenic Hilum: The Long-term Changes in the Imaging Findings.	Intern Med. 2016 Dec; 55(24):3591- 3594	Case report
7	Fujiya M, Sato H, Ueno N et al.	第三内科	Efficacy and adverse events of cold vs hot polypectomy: A meta-analysis.	World J Gastroenterol. 2016 Jun; 22(23):5436- 5444	Original Article

8	Sugiyama Y, Sasajima J, Mizukami Y et al.	第三内科	Gli2 protein expression level is a feasible marker of ligand-dependent hedgehog activation in pancreatic neoplasms.	Pol J Pathol. 2016 Jun; 67(2):136-144	Original Article
9	Sasajima J, Okamoto K, Taniguchi M.	第三内科	Hematogenous Gastric Metastasis of Pancreatic Cancer.	Case Rep Gastroenterol. 2016 May; 10(1):75-80	Case report
10	Ito S, Ikuta K, Kato D et al.	第三内科	In vivo behavior of NTBI revealed by automated quantification system.	Int J Hematol. 2016 Aug; 104(2):175-181	Original Article
11	Yamamoto M, Tanaka H, Toki Y et al.	第三内科	Iron-induced epigenetic abnormalities of mouse bone marrow through aberrant activation of aconitase and isocitrate dehydrogenase.	Int J Hematol. 2016 Oct; 104(4):491-501	Original Article
12	Sasajima J, Uehara J, Goto T et al.	第三内科	Pancreatic metastasis of angiosarcoma (Stewart-Treves syndrome) diagnosed using endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration: A case report.	Medicine (Baltimore). 2016 Aug; 95(33):e4316 (オンライン)	Case report
13	Goto T, Sasajima J, Koizumi K et al.	第三内科	Primary Poorly Differentiated Squamous Cell Carcinoma of the Extrahepatic Bile Duct.	Intern Med. 2016 Jun; 55(12):1581-1584	Case report
14	Konishi H, Fujiya M, Tanaka H et al.	第三内科	Probiotic-derived ferrichrome inhibits colon cancer progression via JNK-mediated apoptosis.	Nat Commun. 2016 Aug; 7:12365	Original Article
15	Inaba Y, Ueno N, Numata M et al.	第三内科	Soluble bioactive microbial mediators regulate proteasomal degradation and autophagy to protect against inflammation-induced stress.	Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol. 2016 Oct; 311(4):G634-G647	Original Article

16	Ijiri M, Fujiya M, Ueno N et al.	第三内科	Syphilis infection throughout the whole gastrointestinal tract.	Endoscopy. 2016 Oct; 48(S 01):E338-E339 (オンライン)	Case report
17	Moriichi K, Fujiya M, Okumura T.	第三内科	The efficacy of autofluorescence imaging in the diagnosis of colorectal diseases.	Clin J Gastroenterol. 2016 Aug; 9(4):175-183	Original Article
18	Hasebe T, Matsukawa J, Ringus D et al.	第三内科	Daikenchuto (TU-100) Suppresses Tumor Development in the Azoxymethane and APCmin/+ Mouse Models of Experimental Colon Cancer.	Phytother Res. 2017 Jan; 31(1):90-99	Original Article
19	Okano S, Sugimoto M, Takase M et al	小児科	Effectiveness of High-dose Spironolactone Therapy in a Patient with Recurrent Protein-losing Enteropathy after the Fontan Procedure.	Intern Med. 2016 Jun; 55(12):1611-4	Case report
20	Akiko Furuya, Shigeru Suzuki, Miho Oshima, et al.	小児科	Age-Adjusted Glycated Albumin at Diagnosis is more Correlated with the Product of Age and Plasma Glucose than Plasma Glucose Alone in Patients with Neonatal Diabetes Mellitus	J Clin Lab Anal. 2016 Nov ; 30(6) : 1086- 91	Original Article
21	Matsuo K, Tanahashi Y, Mukai T et al.	小児科	High prevalence of DUOX2 mutations in Japanese patients with permanent congenital hypothyroidism or transient hypothyroidism	J Pediatr Endocrinol Metab. 2016 Jul; 29(7): 807- 12	Original Article
22	Kamiya H, Schilling M, Akhyari P,et al.	心臓外科	Outcome analysis for prediction of early and long-term survival in patients receiving intra-aortic balloon pumping after cardiac surgery.	General thoracic and cardiovascular surgery 2016 Oct;64(10):584 -91	Original Article
23	Hagiwara M , Matsuno N , Meng LT, et al.	外科	Applicability of Combined Use of Extracorporeal Support and Temperature-Controlled Machine Perfusion Preservation for Liver Procurement of Donors After Cardiac Death in Pigs	Transpl Proc. 2016 May; 48(4): 1234-8	Original Article

24	Furukori M , Matsuno N , Meng LT,et al.	外科	Subnormothermic machine perfusion preservation with rewarming for donation after cardiac death liver grafts in pigs	Transpl Proc. 2016 May; 48(4): 1239-43	Original Article
25	Kobayashi T, Chiba H, Jimbo S, et al.	整形外科	Clinical, physical, and radiographic analyses of lumbar degenerative kyphosis and spondylolisthesis among community-based cohort.	Eur Spine J.2016 Aug;25(8):2384 -9	Original Article
26	Abe S, Nochi H, Ito H	整形外科	Alloreactivity and immunosuppressive properties of articular chondrocytes from osteoarthritic cartilage.	J Orthop Surg (Hong Kong).2016 Aug;24(2):232- 9	Original Article
27	Honma M , Nozaki H , Nagahata H , et al.	皮膚科	Elevation of serum carcino- embryonic antigen in a case of cholinergic urticaria with failed detection of hypohidrosis by the conventional starch-iodine test.	J Dermatol. 201644(3):e38- e39	Original Article
28	Honma M , Takahashi C , Hori M , et al.	皮膚科	Fixed exanthema emerged following narrowband ultraviolet B irradiation.	J Dermatol. 2016 44(3):e40-e41	Original Article
29	Honma M , Shibuya T , Iinuma S , et al.	皮膚科	Close correlation of bone mineral density and body mass index in Japanese psoriasis patients.	J Dermatol. 2016 May 21.44(3):e1-e2	Original Article
30	Honma M , Iinuma S , Kanno K , et al.	皮膚科	Serum carcinoembryonic antigen (CEA) as a clinical marker in acquired idiopathic generalized anhidrosis: a close correlation between serum CEA level and disease activity.	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2016 Aug;30(8):1379 -83	Original Article
31	Kishibe M , Baida G , Bhalla P , et al.	皮膚科	Important role of kallikrein 6 for the development of keratinocyte proliferative resistance to topical glucocorticoids.	Oncotarget. 2016 Oct 25;7(43):69479 -69488	Original Article

32	Uehara J , Honma M , Ohishi Y , et al.	皮膚科	Successful combination therapy of low-dose vorinostat, etretinate and narrowband ultraviolet B irradiation for Sézary syndrome.	J Dermatol. 2016 Jul 21.44(3):e30- e31	Original Article
33	Inuma S , Kishibe M , Saito N , et al.	皮膚科	Kallikrein-related peptidase 6 promotes psoriasiform skin inflammation through a protease-activated receptor 2-independent mechanism.	Exp Dermatol. 20167 Mar, 13.26(3):289- 291.	Original Article
34	Fujii M , Takahashi I , Kishiyama K , et al.	皮膚科	Case of generalized eosinophilic pustular folliculitis induced by allopurinol.	J Dermatol. 2016 Apr;43(4):458- 9. doi: 10.1111/1346- 8138.13223. Epub 2015 Dec 15.	Original Article
35	Igawa S , Kishibe M , Hori M , et al.	皮膚科	Incomplete KLK7 secretion and upregulated LEKTI expression underlie hyperkeratotic stratum corneum in atopic dermatitis.	J Invest Dermatol. 2016137(2):449 -456.	Original Article
36	Saito T , Matsuya T , Takahashi C, et al.	皮膚科	Novel postzygotic KRAS mutation in a Japanese case of epidermal nevus syndrome presenting with two distinct clinical features, keratinocytic epidermal nevi and sebaceous nevi.	J Dermatol. 201644(3):e28- e29.	Original Article
37	Naoki Wada, Hiromichi Iuchi, Masafumi Kita, et al	泌尿器科	Urodynamic Efficacy and Safety of Mirabegron Add-on Treatment with Tamsulosin for Japanese Male Patients with Overactive Bladder	LUTS. 2016 September; 8(3): 171-6	Original Article
38	Ishibazawa A, Nagaoka T, Yokota H, et al.	眼科	Characteristics of Retinal Neovascularization in Proliferative Diabetic Retinopathy Imaged by Optical Coherence Tomography Angiography.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2016 Nov; 57(14): 6247- 6255,	Original Article
39	Ishii N, Yamaguchi T, Yazu H, et al.	眼科	Factors associated with graft survival and endothelial cell density after Descemet's stripping automated endothelial keratoplasty.	Sci Rep. 2016 Apr 28;6:25276.	Original Article

40	Ishii N, Kinouchi R, Inoue M, et al.	眼科	Linezolid-induced optic neuropathy with a rare pathological change in the inner retina.	Int Ophthalmol. 2016 Dec;36(6):761-766	Original Article
41	Ito H, Takahashi A, Ishiko S, et al.	眼科	Retinal cavernous hemangioma documented by spectral-domain optical coherence tomography and confocal scanning laser ophthalmoscope retro-mode imaging.	Retin Cases Brief Rep. 2016 Oct;10(4):373-376	Original Article
42	Kawai M, Inoue T, Yoshida A, et al.	眼科	Early Postoperative Changes in Aqueous Monocyte Chemoattractant Protein-1 Levels after Phacoemulsification.	Data in Brief. 2016 Nov;9:922-925, 2016.	Original Article
43	Nagaoka T, Tani T, Song YS,et al.	眼科	Evaluation of Retinal Circulation Using Segmental-Scanning Doppler Optical Coherence Tomography in Anesthetized Cats.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2016 Jun;57(7):2936-2941	Original Article
44	Mase T, Ishibazawa A, Nagaoka T,et al.	眼科	Radial Peripapillary Capillary Network Visualized Using Wide-Field Montage Optical Coherence Tomography Angiography.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2016 Jul;57(9):OCT504-OCT510	Original Article
45	Otani S, Nagaoka T, Omae T, et al.	眼科	Histamine-Induced Dilation of Isolated Porcine Retinal Arterioles: Role of Endothelium-Derived Hyperpolarizing Factor.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2016 Sep;57(11):4791-4798.	Original Article
46	Song YS, Nagaoka T, Omae T,et al.	眼科	SYSTEMIC RISK FACTORS IN BILATERAL PROLIFERATIVE DIABETIC RETINOPATHY REQUIRING VITRECTOMY.	Retina. 2016 Jul;36(7):1309-13	Original Article
47	Song YS, Nagaoka T, Yoshioka T,et al.	眼科	Glial Endothelin-1 Regulates Retinal Blood Flow during Hyperoxia in Cats.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2016 Sep; 57(11): 4962-4969	Original Article

48	Takahashi A, Nagaoka T, Yoshida A. et al.	眼科	Enhanced Vitreous Imaging Optical Coherence Tomography in Primary Macular Holes.	Int Ophthalmol. 2016 Jun;36(3):355- 363	Original Article
49	Kawai M, Kawai N, Nakabayashi S,	眼科	Comparison of intraocular pressure variability in glaucoma measured by multiple clinicians with those by one clinician.	Int Ophthalmol. 2017 Feb;Feb;37(1): 95-101	Original Article
50	Hanada K, Nishikawa N, Miyokawa, et al.	眼科	Long-term outcome of amniotic membrane transplantation combined with mitomycin C for conjunctival reconstruction after ocular surface squamous neoplasia excision.	Int Ophthalmol. 2017 Feb;37(1):71- 78.	Original Article
51	Utsunomiya T, Ishibazawa A, Nagaoka T, et al.	眼科	Transforming Growth Factor- β Signaling Cascade Induced by Mechanical Stimulation of Fluid Shear Stress in Cultured Corneal Epithelial Cells.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2016 Nov;57(14): 6382-6388	Original Article
52	Harabuchi Y, Kishibe K, Tateyama K, et al	耳鼻咽喉科	Clinical features and treatment outcomes of otitis media with antineutrophil cytoplasmic antibody (ANCA)-associated vasculitis (OMAAV): A retrospective analysis of 235 patients from a nationwide survey in Japan.	Mod Rheumatol. 2017 Jan; 27: 87-94.	Original Article
53	Kumai T, Kobayashi H, Harabuchi Y	耳鼻咽喉科	Novel targets for natural killer/T- cell lymphoma immunotherapy. Novel targets for natural killer/T-cell lymphoma immunotherapy.	Immunotherapy . 2016 ; 8: 45- 55.	Original Article
54	Takahara M, Nagato T, Kishibe K, et al	耳鼻咽喉科	Novel treatment for early-stage nasal natural killer/T-cell lymphoma: intra-maxillary arterial infusion chemotherapy with concomitant radiotherapy.	Hematol Oncol. 2017 Jun; 35: 158- 162.	Original Article
55	Kumai T, Lee S, Cho HI, et al	耳鼻咽喉科	Optimization of Peptide Vaccines to Induce Robust Antitumor CD4 T-cell Responses.	Cancer Immunol Res. 2017 Jan; 5: 72-83.	Original Article

56	Gaku Minase , Toshinobu Miyamoto , Yasushi Miyagawa , et al.	産科婦人科	Single-nucleotide polymorphisms in the human RAD21L gene may be a genetic risk factor for Japanese patients with azoospermia caused by meiotic arrest and Sertoli cell-only syndrome.	Human Fertility . 2017 Sep; 20(3): 217-220	Original Article
57	Michihiro Nakayama, Atsutaka Okizaki, and Koji Takahashi	放射線科	A Randomized Controlled Trial for the Effectiveness of Aromatherapy in Decreasing Salivary Gland Damage following Radioactive Iodine Therapy for Differentiated Thyroid Cancer	BioMed Research International. 2016 Nov (オンライン)	Others
58	Kanda H, Kanao M, Liu S et al.	麻酔科蘇生科	HSV vector-mediated GAD67 suppresses neuropathic pain induced by perineural HIV gp120 in rats through inhibition of ROS and Wnt5a.	Gene Ther. 2016 Apr;23(4):340-8	Original Article
59	Sato I, Kanda H, Kunisawa T	麻酔科蘇生科	Utility of x-plane TEE imaging in giant right atrial myxoma.	J Anesth. 2016 Apr;30(2):363	Case report
60	Kanao-Kanda M, Kanda H, Takahata O et al.	麻酔科蘇生科	A case of gait disturbance caused by low-dose gabapentin.	Ther Clin Risk Manag. 2016 Jun 9;12:927-9	Case report
61	Iwasaki H, Sasakawa T, Takahoko K et al.	麻酔科蘇生科	A case series of re-establishment of neuromuscular block with rocuronium after sugammadex reversal.	J Anesth. 2016 Jun;30(3):534-7	Case report
62	Iida T, Yi H, Liu S et al.	麻酔科蘇生科	Spinal CPEB-mtROS-CBP signaling pathway contributes to perineural HIV gp120 with ddC-related neuropathic pain in rats	Exp Neurol. 2016 Jul;281:17-2	Original Article
63	Sato M, Kikuchi C, Sasakawa T et al.	麻酔科蘇生科	Effects of remifentanil on the sphincter of Oddi in a 3-year-old child: a case report.	J Clin Anesth. 2016 Aug;32:262-4	Case report

64	Sasakawa T, Masui K, Kazama T et al.	麻酔科蘇生科	The predictive ability of six pharmacokinetic models of rocuronium developed using a single bolus: evaluation with bolus and continuous infusion regimen.	J Anesth. 2016 Aug;30(4):620-7	Original Article
65	Sato M, Kunisawa T, Kurosawa A et al.	麻酔科蘇生科	Pulse oximetry-derived pleth variability index can predict dexmedetomidine-induced changes in blood pressure in spontaneously breathing patients.	J Clin Anesth. 2016 Nov;34:318-24	Original Article
66	Onodera Y, Kanao- Kanda M, Kanda H et al.	麻酔科蘇生科	Pregnancy suppresses neuropathic pain induced by chronic constriction injury in rats through the inhibition of TNF- α .	J Pain Res. 2017 Mar 8;10:567-574	Original Article
67	Tamura Y, Ogawa H, Kapeller C,et al.	脳神経外科	Passive language mapping combining real-time oscillation analysis with cortico-cortical evoked potentials for awake craniotomy	J Neurosurg. 2016 Dec; 125(6): 1580-1588	Original Article
68	Ogawa H, Kamada K,Kapeller C,et al.	脳神経外科	Clinical Impact and Implication of Real-Time Oscillation Analysis for Language Mapping	World Neurosurgery. 2017 Jan; 97: 123-131	Original Article
69	Saito T, Hayashi K, Nakazawa H 他	リハビリテーション科	Clinical Characteristis and Lesions Responsible for Swallowing Hesitation After Acute Cerebral Infarction	Dysphagia. 2016 Aug; 31(4): 567-73	Original Article
70	Yoshida N, Hashimoto Y, Shikota M 他	リハビリテーション科	Relief of neuropathic pain after spinal cord injury by brain-computer interface training	Spinal Cord Ser Cases. 2016 Oct (オンライン)	Case report
71	Masahiro Kitada, Shunsuke Yasuda, Nana Takahashi, et al.	乳腺疾患センター	Non-islet cell tumor hypoglycemia caused by intrathoracic solitary fibrous tumor: a case report.	Journal of Cardiothoracic Surgery. 2016Apr (オンライン)	Original Article

72	Masahiro Kitada, Shunsuke Yasuda, Nana Takahashi, et al.	乳腺疾患センター	Surgical treatment for mediastinal parathyroid adenoma causing primary hyperparathyroidism	Journal of Cardiothoracic Surgery.2016 Apr (オンライン)	Original Article
73	Satoshi Hayashi, Shunsuke Yasuda, Nana Takahashi, et al.	乳腺疾患センター	Nodular fasciitis of the breast clinically resembling breast cancer in an elderly woman: a case report	Journal of Medical Case Reports. 2017 May (オンライン)	Original Article
74	Satoshi Fujii	臨床検査医学講座	MicroRNA in atherothrombosis: is it useful as a disease marker?	Thromb J. 14(Suppl 1):21, 2016	Original Article
75	Satoshi Fujii	臨床検査医学講座	PAI-1 in Myocardial Remodeling: Is Pharmacological Suppression by ARB Beneficial?	J Atheroscler Thromb. 23(5): 550-551, 2016	Others
76	Yuzawa S, Nishihara H, Tanaka S	病理部	Genetic landscape of meningioma.	Brain Tumor Pathol. 2016 Oct; 33: 237-247.	Review

計 76 件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
----	-------	-----------------------	----	---------------	------

1	Nakagawa N , Hasebe N , Hattori M , et al.	第一内科	J-RBRを利用した、わが国の膜性増殖性糸球体腎炎(NPGN)の臨床像と腎病理所見についての検討	日本腎臓学会誌. 2016 May; 58: 221	Review
2	Hasebe N	第一内科	慢性腎臓病と大動脈疾患	日本内科学会雑誌. 2016 May; 105: 834	Review
3	Sato N , Hasebe N	教育センター	第6章知っておきたい血圧変動関連の臨床研究 17CAMUI研究サブ解析	最新知見をアップデート 血圧変動エビデンス & プラクティス. 2016 May; 172	Review
4	Fujino T , Hasebe N	第一内科	慢性腎臓病(CKD)診療を極めるCKDに関する大規模臨床研究と診療ガイドライン	内科. 2016 Jul; 118: 5-11	Review
5	Matsuki M , Hasebe N	第一内科	【最新冠動脈疾患学(下)-冠動脈疾患の最新治療戦略-】 心不全の臨床 心不全の治療 その他の治療 血液浄化療法	日本臨床.2016 Aug; 74増刊6 最新冠動脈疾患学(下): 427-431	Review
6	Takeuchi T , Hasebe N	第一内科	第5章管理・治療 降圧薬の特徴と使い方 1. カルシウム拮抗薬	最新医学別冊 診断と治療 ABC 116 高血圧. 2016 Sep; 183-191	Review
7	Nakagawa N , Hasebe N	第一内科	特集:循環器疾患治療薬:薬の使い方、どこまで理解していますか? 循環器を識る b-.RAAS阻害薬(ACE阻害薬・ARB[直接的レニン阻害薬含む])	Heart View. 2016 Oct; 20: 10-4	Review
8	Sato N , Hasebe N	教育センター	主要な薬物の特徴とエビデンス カルシウム(Ca)拮抗薬のエビデンス	医学のあゆみ.2016 Dec; 259: 1413-20	Review
9	Sakamoto N , Hasebe N	第一内科	特集:二次性心筋症の臨床 アルコール性心筋症	循環器内科. 2017 Jan; 81: 72-8	Review
10	Nakagawa N	第一内科	透析患者予後とメタボリックシンドローム	腎臓内科・泌尿器科. 2017 Feb; 5: 127-132	Review
11	Sato N , Hasebe N	教育センター	特集:高齢者高血圧の最前線 高齢者高血圧の血圧変動性の管理	血圧. 2017 Mar; 24: 1778-82	Review

12	Toki Y, Ikuta K.	第三内科	慢性炎症に伴う貧血の病態(臨床に役立つ知識と情報).	Medical Practice 2016 Sep; 33(9):1371-1375.	Review
13	Ikuta K	第三内科	鉄代謝異常(鉄欠乏・鉄過剰)の評価およびモニタリング(検査UPDATE).	SRL宝函. 2016 Oct; 37(3):4-12	Review
14	Nomura Y, Fujiya M, Iwama T et al.	第三内科	【消化管拡大内視鏡診断2016】大腸 炎症性腸疾患の拡大内視鏡診断 炎症(解説/特集)	胃と腸. 2016 May; 51(5):683-689	Review
15	Fujiya M	第三内科	腸内細菌と諸疾患-ここまで明らかになった腸内細菌と全身疾患の関連】治療薬解説 腸内細菌を標的とした治療法(解説/特集)	カレントレジャー. 2016 Nov; 34(11):1111-1117	Review
16	Ikuta K, Okumura T.	第三内科	【代謝と血液疾患】鉄代謝と赤血球造血	血液内科. 2016 Oct; 73(4):448-454	Review
17	Okumura T	第三内科	【脳腸相関 各種メディエーター, 腸内フローラから食品の機能性まで】(Part 2)脳腸相関にかかわる生理活性物質 オレキシン(解説/特集)	臨床栄養. 2016 May; 128(6):766-768	Review
18	Yamamoto M, Ikuta K.	第三内科	慢性疾患に伴う貧血(赤血球系疾患)	研修ノートシリーズ 血液科 研修ノート. 2016 May; 225-228	Others
19	Fujiya M	第三内科	医療文書の書き方 診療記録・処方箋・診断書・死亡診断書	消化器研修ノート. 2016 May; 642-649	Others
20	Kimura F, Nakanishi S, Kamiya H	外科(心臓大血管)	大動脈弁輪拡張症を合併した成人右室二腔症の1例	胸部外科 (2016,5) vol 69 5号 p404-407,	Case report
21	Kamiya H, Kitahara H, Ishikawa N, et al.	外科(心臓大血管)	心臓・大血管疾患に対する外科治療-私の僧房弁形成術-	北海道外科雑誌(2016,6) 第61巻 第1号 別刷 p13-19	Review
22	Miyamoto K, Hirasawa M	外科(血管・呼吸・腫瘍病態)	我々の開発した腹腔鏡補助下 Duhamel-Ikeda (GIA) 術式の意義 -Hirschsprung病に対する130年の手術史の中での考察-	北海道外科雑誌(2016,12) 第61巻 第2号 別刷 p157-161	Original Article

23	Azuma N, Kikuchi S, Okuda H, et al.	外科(血管・呼吸・腫瘍病態)	透析例の重症虚血肢に対するバイパス手術 -日本の現状と近年の進歩-	日本血管外科学会雑誌 (2017,2) 26巻1号 p33-39	Review
24	Abe S, Sasaki Y, Sato G	整形外科	高位脛骨骨切り術は半月切除術後の歩行時痛の改善と軟骨変性の進行予防となりうる	JOSKAS 2017.3;42(1):172-3	Original Article
25	Abe S, Nochi H, Ruike T, et al.	整形外科	人工膝関節置換術前後の関節リウマチ疾患活動性とQOLの変化	日本人工関節学会誌. 2016.12;46:635-6	Original Article
26	Sasaki Y, Nochi H, Abe S, et al.	整形外科	Measured resection法を用いたPS-TKAにおける術中ギャップ値と術後屈曲バランスの検討	日本人工関節学会誌. 2016.12;46:365-6	Original Article
27	Abe S	整形外科	Lapidus変法を併用した重度の関節リウマチ前足部変形の治療成績	日本足の外科学会雑誌. 2016.9;37(1):52-54	Original Article
28	Yamamoto A	皮膚科	【似たもの同士:目で見える鑑別診断 2016-水疱性病変編】(Part3.)上肢・手掌(case 10) 水痘再感染vs 虫刺症(解説/特集)	Visual Dermatology.2016 Jun;15巻7号 :Page701-702	Original Article
29	Yamamoto A	皮膚科	Vohwinkel症候群 小児科診療 2016	診断と治療社 2016. 2016 Apr;suppl.79:391	Original Article
30	Honma M, Shibuya T, Fujii M, et al.	皮膚科	熱傷:オフィスダーマトロジーにおける対応 こんなとき困らない 皮膚科救急マニュアル<増大号>	Derma.2016 Oct;249号	Original Article
31	Kishibe M	皮膚科	まるわかり! 膠原病のすべて シェーグレン症候群の診断から治療まで	MB Derma.2016 Nov;250	Original Article
32	Shibuya T, Kato N, Honma M, et al.	皮膚科	【角化症・炎症性角化症】シクロスポリンが奏効したと思われる紅皮症型毛孔性紅色秕糠疹の1例(原著論文/症例報告/特集)	皮膚科の臨床.2016 Jun;58巻7号	Original Article
33	Fujii M	皮膚科	帯状疱疹 こんなとき困らない 皮膚科救急マニュアル<増大号>	Derma.2016 Oct;249号	Original Article

34	Matsuo R , Doi H , Mizumoto S , et al.	皮膚科	舌咽神経麻痺による嚙下障害をきたした汎発性帯状疱疹の1例(原著論文/症例報告)	皮膚科の臨床.2016 Apr;58 巻4号 :Page595-598	Original Article
35	Satoshi I,Kiyoshi M,Reiko K,et al.	眼科、医工連携総研講座	眼科遠隔医療支援ガイドライン(旭川医大版).	日本遠隔医療 学会雑誌. 2016 10月 12(2): 181-184	Original Article
36	Haruna I,Noriko N,Shion H,et al.	眼科	正常眼軸眼の固定内斜視に対し横山法を施行した1例.	眼科臨床紀要 2017 3月 10(3): 240-243	Original Article
37	Kazuomi H,Jiro U, Naoyuki M, et al.	眼科、医工連携総研講座	羊膜移植による眼表面再建とインターフェロン療法で加療した眼瞼結膜悪性黒色腫の1例.	眼科 2016 5月 58(5): 575-580	Original Article
38	Kazuomi H, Satoshi I, Kiyoshi M, et al.	眼科、医工連携総研講座	支援側医師の意見からみた眼科遠隔医療の課題と解決策.	日本遠隔医療 学会雑誌 2016 5月12(1): 2-6	Original Article
39	Kazuhiro Y, Atsushi T, Motofumi K, et al.	眼科	前眼部光干渉断層計が毛様体解離範囲の同定に有用であった低眼圧黄斑症の1例.	臨床眼科 2016 9月 70(9): 1455-1460	Original Article
40	Toru Y,Satoshi I, Kiyoshi M, et al.	眼科、遠軽厚生病院	リアルタイム遠隔外来を活用した眼科医療連携.	日本遠隔医療 学会雑誌 2016 5月12(1): 2-6	Original Article
41	Nomura K, Katayama A, Takahara M, et al	耳鼻咽喉科	バセドウ病に対する内視鏡補助下甲状腺全摘術	頭頸部外科. 2016 Jun; 26: 83-9	Original Article
42	Nomura K, Katayama A, Takahara M, et al	耳鼻咽喉科	内視鏡補助下甲状腺切除術(VANS法)が行われた小児症例の検討	小児耳鼻咽喉 科. 2016 Apr; 37: 58-63	Original Article
43	Nomura K, Katayama A, Kishibe K, et al	耳鼻咽喉科	甲状腺眼症による視神経症に対して鼻内内視鏡下眼窩減圧術を行った2症例	日本鼻科学会 会誌. 2016 Jul; 55: 169-75	Case report
44	Makoto Sato, Atsushi Kurosawa, Tomoki Sasakawa et al.	麻酔・蘇生学	腹腔鏡手術における気腹開始時の血行動態および末梢灌流指標(perfusion index)の変化とレミフェンタニルの投与量の関係に対する検討	麻酔.2016 Jun;65(6):573- 7	Original Article

45	Eriko Ijiri, Takafumi Iida, Hirotsugu Kanda et al.	麻酔・蘇生学	超音波ガイド下橈骨動脈穿刺の有用性の検討	麻酔.2016 Aug;65(8):806-10	Original Article
46	Eriko Ijiri, Yuki Izumi, Makoto Sato et al.	麻酔・蘇生学	超音波ガイド下神経ブロックー最近の話題ー	臨床麻酔.2016 Aug;40(8):1171-8	Review
47	Yoshiko Onodera, Tomoki Sasakawa, Sumiko Sako et al.	麻酔・蘇生学	残存した留置カテーテルの位置特定に超音波画像が有用であった1症例	日本ペインクリニック学会誌.2017 Mar;24(1):75-6	Case report
48	Kamada K	脳神経外科	難治性てんかんの外科治療ー術前診断と外科治療のオプションー	医学と薬学. 2016年5月; 73(5): 557-572	Original Article
49	Kamada K	脳神経外科	再発眼窩内視神経膠腫の摘出と周辺構造の同定	新NS NOW. 2016年9月; No.7: 174-179	Original Article
50	Kamada k	脳神経外科	誰もができる機能画像・術中モニタリング	新NS NOW. 2016年12月; No.8: 64-76	Original Article
51	Kamada k,Anei R	脳神経外科	脳腫瘍の病理検査・診断 髄液細胞診	日本臨床. 2016年9月; 74 (増刊号7): 510-512	Original Article
52	Tsuyuguchi N,Kamada K	脳神経外科	体性感覚誘発磁場(SEF)	CLINICAL NEUROSCIEN CE. 2017年2 月; 35(2): 210-214	Original Article
53	Shibayama N , Takekawa M , Matsuda M et al.	歯科口腔外科	間葉系幹細胞から骨芽細胞への分化段階に応じた分化能、増殖能、癌化についてのin vitroにおける検討	北海道医学雑誌. 2016年4月; 第91巻第1号: p31-36	Original Article
54	Shibayama N , Yoshida M , Fujii F et al.	歯科口腔外科	解離性大動脈による慢性DIC状態が原因と考えられた抜歯後出血の1例	有病者歯科医療学会. 平成 28年4月 ;第25 巻第1号	Case report
55	Shibayama N , Yoshida M , Fujii F et al.	歯科口腔外科	小児における鋭利な歯科治療器具誤飲の1例	小児口腔外科. 平成28年4月; 第26巻 第1号	Case report

56	Okada M	救急医学講座	【同効薬の使い分け なぜこの薬を選ぶ?降圧薬・利尿薬など、よく使う薬の患者に合わせた考え方】 降圧薬の使い分け(解説/特集) 降圧薬の使い分け	レジデントノート. 2016 Jul; 18 巻6号: 1035-1043	Others
57	Kokita N	集中治療部	【体温管理-どうして必要?どうすればいい?にお答えします-】偶発性低体温症	手術ナーシング. 2016 Oct; 3 巻2号: 78-87	Others
58	Okada M , Hasebe N	救急医学講座	【これだけは知っておきたい循環管理-研修医からの質問323-】高血圧緊急症 高血圧緊急症	救急・集中治療. 2016 Dec; 28巻臨増: e217-e221	Others
59	Tanpo A , Mamiya K , Honma Y , et al.	救急医学講座	雷撃症の治療経験	日本ペインクリニック学会誌 . 2016 Oct; 23 巻4号: 570-572	Original Article
60	Satoshi Fujii, Katsuya Ikuta, Takashi Okuyama, et al.	感染制御部	職員に対する4価インフルエンザワクチン接種の副反応	日本環境感染学会誌. 2017 Feb; Vol.31 no.6: P397-40	Case report
61	Satoshi Fujii, Katsuya Ikuta, Takashi Okuyama, et al.	臨床検査医学講座	貯血に伴うHb低下を迅速に予測する新規臨床検査法の開発と応用	自己血輸血. 2016 Dec; 29 巻2号: P157-164	Original Article
62	Tomohisa Watari	臨床検査・輸血部	臨床医からの質問に答える グラム染色所見と培養結果の不一致はなぜ起こるのでしょうか?	検査と技術. 2016 Sep; 44(9): p798-801	Case report
63	Eisuke Itoh, Tsukasa Saito, Marina Imahashi, et al.	臨床検査・輸血部	前脛骨筋導出のF波が診断に有用であった坐骨神経障害の一例	北臨技会誌. 2016 Jul; 1(2): p41、2016年	Review
64	Yoshie Kawahara, Yutaka Tomoda	臨床検査・輸血部	【今日から始める臨床検査のヒューマンエラー対策】臨床検査領域・場面別 ヒューマンエラーの傾向と対策 輸血検査	Medical Technology. 2016 Dec; 44(13):p1463-1469	Review
65	Kazumi Akasaka	臨床検査・輸血部	【第1部 循環管理を始める前に第1章 温故知新】9. 抵抗係数(RI)と拍動係数(PI)	麻酔科医として必ず知っておきたい周術期の循環管理.2016 May:p55-57	Others
66	Inoue M , Uchida N , Nagashima M et al	薬剤部	薬剤師による継続的な吸入指導がもたらす喘息外来患者の喘息コントロール改善効果	医療薬学. 2016 Sep; 42巻 9号:620-625	Original Article

67	Amauchi Masato , Souman Kouji , Hirata Satoshi	手術部	ATPを指標とした三種類の清拭用材料(素材)による拭き取り性能、転写および染み出し特性に関する研究	医療感染関連. 2016年12月; 9巻2号: Page42-51	Original Article
68	Hirata Satoshi	手術部	第5章 手術室の管理	新体系看護字全書(別巻)治療法概説. 2016年12月; 第5章手術室の管理265-278	Others
69	Hirata Satoshi	手術部	外科診療におけるチーム医療の現状と展望 2. チーム医療による円滑な手術室の運営	日本外科学会雑誌. 2017年3月; 第118巻第2号: Page144-148	Others

計 69 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 臨床研究の実施に必要な手続き等を定めたもの。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 1 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反の管理に必要な手続き等を定めたもの。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年40回 (持ち回り審議)

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 8 回
・ 研修の主な内容 各種指針（人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針）に関する講習、利益相反に関する講習、生命科学・医学研究の安全性確保に関する講習等	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

心血管カテーテル治療、先進的肺癌治療、心血管再生療法、不整脈治療、腎炎ネフローゼの集学的治療、糖尿病腎症の寛解を目指した集約的治療、膵癌・肝癌の集学的治療、膠原病・内分泌疾患における集学的診断治療法、炎症性腸疾患の新規治療：新しい絶体療法を含むLBDの治療、特殊光内視鏡や小腸内視鏡を駆使した診断治療、消化管腫瘍の内視鏡治療：EMR・ESDによる早期性治療、カプセル内視鏡・小腸内視鏡を用いた小腸疾患治療：小腸癌・リンパ腫をはじめ小腸疾患の最新の診断治療、消化管疾患を有する悪性リンパ腫に対する最新の診断治療、輸血後鉄過剰症に対する最新のマネジメント：新規鉄キレート療法を含む、小児救急医療、新生児医療、最先端の弓部大動脈瘤手術、高難度バイパス手術による救肢治療、整容性を考慮した乳房温存手術、最先端の弓部大動脈瘤手術、腹腔鏡補助下消化管癌手術、炎症性腸疾患外科治療、肝胆膵領域高難度手術、人工股関節置換術、悪性黒色腫のセンチネルリンパ節生検、上部尿路結石に対する内視鏡的手術、難治性下部尿路機能障害の診断と治療、極小切開白内障手術、難治緑内障に対する手術療法、角膜パーツ移植術、糖尿病網膜症の硝子体手術、超選択的動注化学療法、人工内耳埋め込み術とその管理、音声再建外科、内視鏡手術、胎児超音波診断、高度生殖医療、CT・MRI・US・血管造影・核医学・PET-CTによる総合画像診断、IVR、放射線治療、RI内用療法、マンモグラフィ読影、3Dエコー診断による手術中の心機能評価、高感度超音波診断装置を利用した選択的末梢神経ブロック、薬物シミュレーションを用いた効果部位濃度測定による薬物管理、硬膜外内視鏡を用いた腰下肢痛治療、ニューロナビゲーター支援下脳神経手術、神経内視鏡支援下脳神経手術、難治性てんかんに対する焦点部切除手術、3次救急初療、人工呼吸管理、経食道心エコー、ドクターヘリ講習、気道管理における超音波の利用、超音波ガイド下中心静脈穿刺、超音波による胃内容の評価、周産期救急・敗血症性DICの管理 等

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	50.67 人
-------------	---------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
長谷部 直幸	第一内科	教授	37 年	循環器内科、腎臓内科、神経内科、呼吸器内科
牧野 雄一	第二内科	准教授	25 年	膠原病・内分泌内科、消化器内科、糖尿病科
奥村 利勝	第三内科	教授	33 年	消化器内科、血液腫瘍内科
千葉 茂	精神科神経科	教授	38 年	精神科神経科
東 寛	小児科	教授	38 年	小児科・思春期科、新生児科
東 信良	外科	教授	32 年	血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科
紙谷 寛之	外科	教授	20 年	心臓外科

古川 博之	外科	教授	37	年	消化器外科・移植外科
伊藤 浩	整形外科	教授	29	年	整形外科
山本 明美	皮膚科	教授	34	年	皮膚科
柿崎 秀宏	泌尿器科	教授	32	年	腎泌尿器外科
川井 基史	眼科	講師	20	年	眼科
原淵 保明	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	35	年	耳鼻咽喉科、頭頸部外科
千石 一雄	産科婦人科	教授	38	年	周産母子科（産科）、女性医学科（婦人科・生殖医学科）
高橋 康二	放射線科	教授	35	年	放射線科（放射線診断・IVR）、放射線科（放射線治療）、放射線科（核医学）
國澤 卓之	麻酔科蘇生科	教授	20	年	麻酔科蘇生科、ペインクリニック、緩和ケア科
鎌田 恭輔	脳神経外科	教授	29	年	脳神経外科
竹川 正範	歯科口腔外科	准教授	32	年	歯科口腔外科
藤田 智	救急科	教授	36	年	救急科
大田 哲生	リハビリテーション科	教授	28	年	リハビリテーション科
三代川 齊之	病理診断科 病理部	教授	36	年	病理診断科
大崎 能伸	呼吸器センター	教授	37	年	呼吸器内科
北田 正博	呼吸器センター 乳腺疾患センター	准教授	30	年	呼吸器外科、乳腺外科
國澤 卓之	緩和ケア診療部	教授	20	年	（兼）
奥村 利勝	総合診療部	教授	33	年	（兼）
藤井 聡	臨床検査・輸血部	教授	36	年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
次頁以降参照
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
次頁以降参照
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

4. 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

①医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

1	研修の主な内容	<u>初任者研修</u> 看護部運営と方針、継続教育、看護倫理、接遇、医療安全、他部門紹介等の講義を受け、病院組織における役割・心構えを理解する。
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 4 月 4～9 日、11～13 日 (8 日間/人) 1 回
	研修の参加人数	64 人
2	研修の主な内容	<u>新卒者看護技術研修（基礎Ⅰ・基礎Ⅱ）</u> 安全を確保し、的確な看護判断と末梢点滴静脈注射、酸素療法、筋肉注射等の看護技術を実践する能力を養う。
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 4 月 14 日～18 日、20 日、5 月 12 日・13 日 (3 日/人) 1 回
	研修の参加人数	62 人
3	研修の主な内容	<u>新卒者看護技術研修（基礎Ⅲ）</u> 所属部署で実施する看護技術を患者・家族に説明でき、安全に適切に提供する能力を養う。
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月 (2 日間/人) 1 回
	研修の参加人数	62 人
4	研修の主な内容	<u>新卒者静脈注射Ⅰ・Ⅱ</u> 静脈注射に関連する法的解釈・薬物の薬理作用と与薬上の注意点、基礎看護技術を習得する。
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 5 月 31 日・6 月 1 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	62 人

5	研修の主な内容	<u>新卒者メンバーシップ研修</u> 看護チームにおけるチームメンバーの役割が理解できる。
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 6 月 29 日・6 月 30 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	62 人
6	研修の主な内容	<u>新卒者看護過程</u> 患者のニーズに沿った看護過程の展開と看護記録について理解を深める。
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 7 月 21 日・22 日 (1 日/人) 1 回
	研修の参加人数	61 人
7	研修の主な内容	<u>新卒者シミュレーション研修</u> 多重課題・時間切迫の状況下における傾向を自ら気づき安全なケアの実践力を高めるために場面設定による演習を行う。
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 11 月 14 日～18 日 (110 分/人) 1 回
	研修の参加人数	60 人
8	研修の主な内容	<u>新卒者私の看護</u> 事例検討を通して、看護の視点を深める。
	研修の期間と実施回数	平成 29 年 1 月 12 日・13 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	59 人
9	研修の主な内容	<u>新卒者静脈注射Ⅲ</u> 静脈注射を安全に実施するための知識を備え、実践能力を身につける。
	研修の期間と実施回数	平成 29 年 2 月 4 日・5 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	61 人
10	研修の主な内容	<u>新任者静脈注射Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ</u>

		<p>静脈注射に関連する法的解釈・薬物の薬理作用と与薬上の注意点、技術を習得する。</p>
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 4 月 26 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	2 人
11	研修の主な内容	<p><u>卒後 2 年目事例検討</u></p> <p>実践事例を通して根拠に基づいたケアを分析し、自己の課題を明らかにする。</p>
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 9 月 15 日・16 日 (1 日/人) 1 回
	研修の参加人数	64 人
12	研修の主な内容	<p><u>卒後 3 年目看護研究</u></p> <p>看護実践における疑問や問題の解決をめざすための研究的視点を養う。</p>
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 5 月～平成 29 年 12 月 (4 日間/人) 1 回
	研修の参加人数	48 人
13	研修の主な内容	<p><u>教育担当者研修 I</u></p> <p>新人を取り巻く社会状況を再認識し、組織として新人看護職員教育支援体制を強化する。</p>
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 5 月 27 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	15 人
14	研修の主な内容	<p><u>教育担当者研修 II</u></p> <p>看護における成人教育と新人看護師教育に関わるスタッフを支援する能力を養う。</p>
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 8 月 5 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	48 人

15	研修の主な内容	<u>教育担当者研修Ⅲ</u> 成人教育学とインストラクショナルデザインについて学ぶ
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 10 月 27 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	45 人
16	研修の主な内容	<u>プリセプターシップⅡ</u> 新人看護師が職場に適応できるように支援する力を養う。
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 6 月 3 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	39 人
17	研修の主な内容	<u>プリセプターシップⅠ</u> プリセプターシップについて学び、新人看護職員の支援について理解を深める。
	研修の期間と実施回数	平成 29 年 2 月 23 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	53 人
18	研修の主な内容	<u>リーダーシップ研修Ⅰ</u> リーダーに求められる機能と役割を講義と演習で学ぶ。
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 7 月 30 日 (1 日/人) 1 回
	研修の参加人数	33 人
19	研修の主な内容	<u>リーダーシップ研修Ⅱ</u> 医療チームにおいてリーダーシップを発揮するための講義とグループワークを実施する。
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 10 月 24 日 (2 日/人) 1 回
	研修の参加人数	23 人
20	研修の主な内容	<u>看護学実習指導者研修</u> 講義とグループワークを通して看護学生の看護実践を指導する能力を高める。
	研修の期間と実施回数	平成 29 年 1 月 27 日 (1 日/人) 1 回

	研修の参加人数	31人
21	研修の主な内容	<u>副看護師長研修</u> 看護管理者の役割を認識し、組織の目的達成に必要な行動をとるために、講義、実践発表会を行う。
	研修の期間と実施回数	1回目：平成28年9月20日・26日 2回目：平成29年1月26日・27日
	研修の参加人数	延べ98人
22	研修の主な内容	<u>看護師長研修</u> 自己の看護管理経験を振り返り、概念化能力を養う目的で講義とグループワークを行う。
	研修の期間と実施回数	平成29年2月24日（0.5日/人） 1回
	研修の参加人数	30人
23	研修の主な内容	<u>院内体験研修</u> 部署で未経験・実施できない基礎看護技術を体験し、他部署とのつながりや看護の継続について振り返る。
	研修の期間と実施回数	平成28年7月～平成29年2月（1日/人） 1回
	研修の参加人数	63人
24	研修の主な内容	<u>看護診断セミナー初級</u> 看護診断の意味・意義・活用を理解する。
	研修の期間と実施回数	平成28年7月16日（1日/人） 1回
	研修の参加人数	69人
25	研修の主な内容	<u>看護診断セミナー上級</u> 看護診断の指導・活用ができる
	研修の期間と実施回数	平成28年9月10日（1日/人） 1回
	研修の参加人数	46人
26	研修の主な内容	<u>看護診断事例検討会</u> 困難事例を振り返り、事例検討を通して看護診断力をつける。

	研修の期間と実施回数	平成 28 年 9 月 9 日 (1 日/人) 1 回
	研修の参加人数	30 人
27	研修の主な内容	<u>理論と実践</u> 理論を活用して看護を語る力を養う。
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 10 月 1 日 (1 日/人) 1 回
	研修の参加人数	18 人
28	研修の主な内容	<u>看護研究セミナー</u> 看護実践の質向上に向けた研究力を高める。
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 7 月 11 日、8 月 9 日、9 月 13 日、10 月 4 日、11 月 8 日、 12 月 13 日 (1 時間/人)
	研修の参加人数	延べ 170 人
29	研修の主な内容	<u>新卒者看護 OSCE 客観的臨床技能試験</u> 口鼻腔吸引の演習を実施し、自己の看護技術の向上を目指し、主体的な学習姿勢を培う。
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 10 月 12 日・13 日・14 日 (30 分/人) 1 回
	研修の参加人数	62 人
30	研修の主な内容	<u>在宅療養支援研修</u> 地域での暮らしを見据えた看護を提供できる能力を育成するために、地域の訪問看護ステーションで研修を行う。
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 9 月 5 日・8 日、10 月 11 日・14 日、12 月 2 日・26 日 (1 日/人) 1 回
	研修の参加人数	10 人
31	研修の主な内容	<u>がん看護ジェネラリスト育成研修プログレス I</u>

		講義とグループワークを通し、がんとともに生きる人々とその家族の体験や特徴を理解し、患者と家族の意向を尊重した看護実践能力を養う。
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 6 月 28 日～11 月 25 日 (70～90 分/人) 3 回
	研修の参加人数	述べ 190 人
32	研修の主な内容	<u>がん看護ジェネラリスト育成研修プログレスⅡ</u> がん化学療法に伴う代表的な副作用症状について理解し、適切な対処方法とセルフケア支援のための知識を習得する。
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 7 月 7 日～平成 29 年 2 月 9 日 (90 分/人) 2 回
	研修の参加人数	述べ 126 人
33	研修の主な内容	<u>がん看護ジェネラリスト育成研修プログレスⅢ</u> 講義とグループワーク、事例検討会を通し、がん化学療法看護の専門的知識をもとに包括的アセスメントを行い、看護経験に基づくケースを分析し、個別的・全人的な看護を展開する能力を養う。
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 10 月 27 日～12 月 15 日 (90～180 分/人) 3 回
	研修の参加人数	述べ 98 人
34	研修の主な内容	<u>がん看護ジェネラリスト育成研修プログレスⅣ</u> がん化学療法看護におけるベツトサイドケアについて検討し、質の高い看護実践能力を育成する。
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 8 月 30 日～平成 29 年 2 月 14 日 (90～180 分/人) 2 回
	研修の参加人数	延べ 56 人

35	研修の主な内容	<u>緩和ケアの看護師育成プログラム</u> がんと診断を受け心理的にも身体的にも苦痛を持っている可能性が高い人に対する基本的な緩和ケアを看護師が担い実践する。
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 7 月 25 日～平成 29 年 2 月 20 日（45 分/人）5 回
	研修の参加人数	<u>延べ 189 人</u>
36	研修の主な内容	<u>平成 28 年度「新卒者・新任看護師に対する静脈注射研修」</u>
	研修の期間と実施回数	4 月 25 日、5 月 30 日、5 月 31 日 計 3 回
	研修の参加人数	<u>94 名（新任 16 名+新卒 78 名）</u>
37	研修の主な内容	<u>ADL 評価法の研修</u> FIM（Functional Independence Measure）の採点方法
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 10 月 8 日・1 回
	研修の参加人数	<u>164 人</u>

4. 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

②業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

1	研修の主な内容	<p>初任者看護必要度研修</p> <p>本研修は、新任者に対し、看護必要度の評価者として必要な知識・能力を養うことを目的としている</p>
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 6 月 7 日・10 日（120 分／人）2 回
	研修の参加人数	63 名
2	研修の主な内容	<p>重症度、医療・看護必要度研修</p> <p>本研修は、診療報酬改定に伴い変更した重症度、医療・看護必要度の評価者として必要な知識・能力を養うことを目的としている。</p>
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 5 月 19・20 日（45 分／人）2 回
	研修の参加人数	199 名
3	研修の主な内容	<p>第 1 回看護助手研修</p> <p>本研修は、看護助手が組織の一員としての役割を理解する、看護助手業務における感染防止対策と必要な知識、技術（器具の後片付け）の獲得を目的としている</p>
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 6 月 23 日 ・ 24 日 （90 分／人）2 回
	研修の参加人数	51 名
4	研修の主な内容	<p>第 2 回看護助手研修</p> <p>本研修は、看護助手業務における医療安全対策と看護助手に必要な知識、技術（入院時オリエンテーション、身長・体重測定）を身につけることを目的としている</p>

	研修の期間と実施回数	平成 28 年 10 月 19 日・20 日 (90 分/人) 2 回
	研修の参加人数	47 名
5	研修の主な内容	第 3 回看護助手研修 本研修は、看護助手が医療制度、組織の概要と看護助手業務における個人情報の取り扱い、倫理について理解すること、看護助手に必要な知識、技術（臥床患者の手浴）の獲得を目的としている
	研修の期間と実施回数	平成 29 年 2 月 16 日・17 日 (90 分/人) 2 回
	研修の参加人数	50 名
6	研修の主な内容	臨床倫理に関する学習会 臨床倫理に基づく視点と 4 分割法について理解することを目的としている。
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 9 月 15 日 (60 分/人) 1 回
	研修の期間と実施回数	95 名
7	研修の主な内容	臨床倫理に関する実践的アプローチを学び、倫理的問題について話し合う。
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 10 月 6 日 (180 分/人) 1 回
	研修の参加人数	24 名
8	研修の主な内容	看護記録学習会 本研修は、実践した看護が見える記録を推進することを目的としている
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 11 月 22 日 (30 分/人) 2 回

	研修の参加人数	136名
9	研修の主な内容	看護診断セミナー 診断概念の学習と標準看護計画の周知を目的とする
	研修の期間と実施回数	平成29年2月14日 (30分/人) 1回
	研修の参加人数	129名
10	研修の主な内容	<u>接遇研修</u> 職員のコミュニケーション能力の向上、職員の意識改革及び資質向上を図る
	研修の期間と実施回数	平成28年9月8日開催
	研修の参加人数	206名参加
11	研修の主な内容	<u>メンタルヘルス講演会</u> ストレスチェックの理解を深めるとともに、メンタルヘルスへの関心を高めることを図る
	研修の期間と実施回数	平成28年10月19日開催
	研修の参加人数	170名参加
12	研修の主な内容	<u>コンプライアンスに関する講演会</u> コンプライアンスの重要性に対する理解を深めるとともに、意識の高揚を図る
	研修の期間と実施回数	平成29年3月23日開催
	研修の参加人数	55名参加

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 平田 哲
管理担当者氏名	総務課長 三浦 哲也、会計課長 吉田 茂、経営企画課長 北脇 清一、 医療支援課長 沼館 敏光、薬剤部長 田崎 嘉一

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院事務部経営企画課	
		各科診療日誌	看護部	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	病院事務部経営企画課	
		看護記録	病院事務部経営企画課	
		検査所見記録	病院事務部経営企画課	
		エックス線写真	病院事務部経営企画課	
		紹介状	病院事務部経営企画課	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病院事務部経営企画課	
		病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿
高度の医療の提供の実績	病院事務部経営企画課			
高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務部総務課			
高度の医療の研修の実績	総務部総務課 病院事務部経営企画課			
閲覧実績	病院事務部経営企画課			
紹介患者に対する医療提供の実績	病院事務部経営企画課			
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院事務部経営企画課			
規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況		医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況		医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況		医療安全管理部	

コンピューターによる集中管理を行っている。カルテ等病歴資料、外来・入院別に1患者1ファイル方式とし、エックス線写真は分冊になっているが1患者単位での管理を行っている。

また旭川医科大学病院診療情報管理規定の「利用資格者の遵守事項」において、学外への持ち出しを禁止しているため、病院外へ持ち出すことは出来ないこととなっている。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務部総務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務部総務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	総務部会計課
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務部総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務部総務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	病院事務部経営企画課
		医療安全管理部門の設置状況	総務部総務課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	病院事務部医療支援課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務部総務課 医療安全管理部
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状	
閲覧責任者氏名	病院事務部長 佐藤 俊明		
閲覧担当者氏名	経営企画課長 北脇 清一		
閲覧の求めに応じる場所	会議室（共通棟（B））		
閲覧の手続の概要			
①経営企画課病院庶務係で閲覧申込（申込者、閲覧理由等を記入）を受ける。			
②病院事務部長の承認を受ける。			
③指定した日時に会議室で閲覧（担当係員立会）。			
④閲覧終了後、担当係員に返却し、担当係員は閲覧事項等を報告する。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容： （１）安全管理の基本理念（２）安全管理組織体制の整備（３）安全管理のための職員研修に関する基本指針（４）部門の長の管理責任の明確化（５）診療マニュアルの活用（本編・携帯ポケットマニュアル）（６）インシデントと医療事故の用語の定義（７）インシデント報告体制（８）医療事故等発生時の対応（９）医療関連死・CPA-OA症例の剖検に関する指針（１０）死亡事例報告体制（１１）医療相談窓口の設置（１２）本指針改正・閲覧</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（有・無） ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容： （１）医療事故防止対策の検討及び推進（２）医療事故防止の啓発活動（講演会等の企画立案を含む）（３）インシデント報告の調査及び分析を行い、その改善策を講じ、改善事項・周知事項の周知徹底を図る（４）医療事故防止対策マニュアルの見直し（５）医療の安全に関する最新情報及び警鐘事例の職員への周知</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 19 回
<p>・ 研修の主な内容： 初任者研修（新規採用研修医・看護師）、新規採用医師・中途採用者の教育（看護師、事務職員、コ・メディカル）、Web講演会、ME機器セミナー（輸液ポンプ・シリンジポンプ・カンガルーポンプ：全 2 回）、インスリン療法研修会、外部講師による講演会、各部門における安全の取り組み報告会&ポスターセッション（2 日間：内容別）、事例検討会、e-ラーニングで学ぶ医療安全など</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： （１）「診療マニュアル第 8 版」「医療安全ポケットマニュアル（第 10 刷）」を発行した。 （２）適応は異なるが同一成分・同一容量の薬剤を投与した一例を受け、改善策として、口頭指示時に医師は、薬品名、規格、1 回薬液量、投与方法を声に出すこと、看護師は、受けた時に薬剤名、1 回使用量、投与方法を復唱し再確認すること、医師へ手渡す時にも薬剤名、規格、1 回使用量を声に出し手渡すこと、部署内で急変対応に関するシミュレーションを定期的に行うこと、リドカイン、アトロピン、アドレナリンに関して商品名と一般名をわかるように引き出しに記載することとした。 （３）退院時処方調剤時の薬剤間違い（スピロペントの処方にスルピリドを調剤）の事例を受け、改善策として、基本はルールを守ること、調剤マニュアルや内規の遵守を徹底することを粘り強く指導していくこと、薬剤部セントラル部門への補助業務をローテーションで行うこと、内服返品作業をやめ、調剤監査業務に集中できるようにすること、処方内容と医薬品を照合するシステム導入を検討することとした。 （４）病理検査結果が迅速から永久病理に変更したことの認知遅れの事例を受け、改善策として、全ての病理診断レポートをサインアウト後にオーダー医師へ電子メール（電子カルテ）にて配信すること、臨床的に診断に影響を及ぼす</p>	

診断の変更時には電話連絡することとした。

(5) 調剤時において、インシデントの情報共有と再発防止策の周知徹底の観点から、定期の業務検討会にて情報共有し防止策の周知すること、インシデント報告ファイルを事例ごとの回覧形式とすること、インシデント事例の具体的な内容や対応についての講習会を実施することとし、また、薬剤師個々のスキルアップの観点から、調剤と監査において2つの方法にて自己チェックを実施すること、指差し呼称を徹底すること、業務手順について模擬処方箋にて相互チェックすることとした。

(6) 末梢静脈ルートの穿刺間違い；末梢下腿グラフト部にルートを確保した事例を受け、改善策として、医師はASO術後症例において、指示簿の特記事項「下肢動脈バイパス術後」にバイパス部位も必ず記載すること、看護師は下肢動脈バイパス術既往がある場合に指示簿に上記の記載を確認することとした。

(7) 検体受け渡し時の指示伝達間違いの事例を受け、改善策として、器械出し看護師は滅菌スピッツおよび滅菌カップを用いて培養検体を密閉保管し、外回り看護師に正確に報告した上で術野外におろすこと、培養検体の取り扱いについてマニュアルに追加すること、検体名や検体の保存方法は声だし確認を行い、確実な返答のもと復唱し保管すること、通常以外の検体を摘出する予定がある場合、手術開始前の手術安全チェック「通常と異なる手順」の項目で示しあわせるよう、各科医師、手術室看護師に周知することとした。

(8) HLA検査の検体取り違えの事例を受け、改善策として、検体分注時には、分注する検体の番号とチューブに記載された番号を確認することを徹底すること、複数検体を同時に検査する際には、検体の並び方を検査開始～検査終了・結果報告まで変更しない運用とすることとした。

(9) 点滴中に呼吸停止していた症例を受け、改善策として、医師看護師間の患者状態の情報共有に関して紙面を元に引き継ぐこと、観察の強化に関して共通処置室で点滴中は足元側のカーテンをあけること及び点滴目的に応じたモニター類を装着し観察することとした。

(10) 鎮静下上部消化管検査を受ける外来患者が自ら運転する自家用車で付添無しに来院した事例を受け、改善策として、医師の同意説明文書に「鎮静から覚醒した場合でも再度眠気が出現する可能性がある」等を加筆し、検査説明用紙の「自動車を運転して来院することを禁じる」等の文書にチェックボックスに患者に確認の上チェックを入れること、看護師からの口頭での説明を追加することとした。

(11) ミタゾラム注の過剰投与の事例を受け、改善策として、眼科注射ワークシートを元に指示内容の確認、作成確認実施確認を行うこと、静脈注射における7つのRおよびダブルチェックを徹底すること、外回り看護師1と外回り看護師2の役割を明確化すること、看護師がミタゾラムに関する知識を獲得すること、手術部における静脈注射実施基準の見直しと薬剤に対する指導を強化すること、ミタゾラムと生理食塩水を併設することとした。

(12) 転倒・転落予防の新たなDVDを外来待合TV及び入退院センター待合TVにて配信した。また、病棟ベッドサイドTVにおいても視聴が可能となった。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 無
<ul style="list-style-type: none">指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none">院内感染対策に関する基本的な考え方・感染制御部・ICTなどの組織的な取り組み院内感染対策のための職員研修に対する基本指針感染症発生状況の報告に関する基本方針院内感染発生時の対応に関する基本方針患者に対する当該指針の閲覧に関する基本方針その他の当院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none">活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none">院内感染の予防に関すること院内感染の情報収集に関すること感染源の追及等のための検査実施に関すること防疫対策の確立に関することHIV感染症の医療体制に関することその他、院内感染対策についての重要事項に関すること	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 21 回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">初任者研修における講義（新採用者、初期研修医）手指衛生・PPE着脱演習（新採用者、中途採用者、各部署の教育担当者、全病院職員）院内感染対策に係る講演会針刺し・切創事故報告感染性胃腸炎様 感染対策研修、ドクターズクランク研修eラーニング	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none">病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">微生物検査室と連携し微生物の新規検出状況を毎日把握しており、当該検出部署の感染対策マネージャーに連絡を行い感染予防策の実施について確認している。また、アウトブレイクが疑われる場合は菌種の遺伝子検査を実施し、同一菌種による発症事例が多数の場合は病院長に報告するとともに、保健所に報告する体制が構築されている。感染制御部における「適正な手指衛生・個人防護具の着脱演習」について、新規採用職員、中途採用職員なども含め、病院職員全体に実施している。また、教育対象を外注職員、ボランティアに拡大するなど院内の感染対策に努めている。医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師などのICTメンバーによる感染制御チームを設置している。1ヶ月に4回以上定期的院内ラウンドを実施し、各種の予防策の実施状況やその効果等の評価を行っている。感染制御チームのラウンドのほかに、感染対策リンクナースとともに各部署の「感染対策オーデット」を行い、感染対策実施状況のチェックと指導を行っている。平成24年4月より、本院を含めた旭川市内5医療機関での連携が開始された。平成25年4月からは1医療機関脱退し、4医療機関で合同カンファレンスや平成26年9月から職種別（看護職）カンファレンスを実施し、相談体制など構築している。平成24年度より、加算1算定医療機関同士の相互チェックを実施している。講演会開催時、連携施設にも連絡し、連携施設の研修参加数が増えている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 10 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 初任者研修 (対象：全職員：看護師：研修医) H28. 4. 4 研修医37名 (2) 新規採用医師並びに看護師の中途採用者の教育 H28. 4. 25 5. 30 5. 31 計94名 (3) 不眠症Luncheon Web講演会「高齢者の不眠症治療について学ぶ」H28. 5. 20 計70名 (4) その他の研修会 ① 薬剤関連インシデント事例から学ぶ事故防止のポイント H28. 6. 9 計257名 ② インスリン療法について H28. 7. 20 計173名 ① 第 1 回事例検討会 (事例から学ぶ) H28. 8. 3 計50名 ② 安全管理・感染制御部合同研修 (安全の基本の基本等) H28. 8. 10 計343名 ③ 各部門での安全の取り組み (実践と報告会) H28. 12. 7-8 計811名 ④ 安全管理部・感染制御部合同研修 (造影剤副作用の予防と対策) H29. 2. 27 計275名 ⑤ 第 2 回事例検討会 (事例から学ぶ) H29. 2. 22 計65名</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容：</p> <p>(1) 総則 (2) 医薬品の採用 (3) 医薬品の購入・管理 (4) 薬剤部における医薬品の管理 (5) 病棟・各部門への医薬品の供給 (6) 外来患者への医薬品使用 (7) 入院患者への医薬品使用 (8) 麻薬管理 (9) 院内製剤 (10) 他施設との連携 (11) 医療事故防止および発生時の対応 (12) 教育・研修</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 厚生労働省医薬食品局：医薬品・医療機器安全情報 (2) 日本製薬団体連合会：Drug Safety Update (3) 各メーカー・卸からの回収情報等の収集</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 18 回
・ 研修の主な内容： 定期研修 ME 機器セミナー（シリンジポンプ、輸液ポンプ）：2回 医療機器安全基礎講習会：1回 人工心肺操作時のトラブル対応シミュレーション：1回 人工呼吸療法に関するセミナー：3回 高気圧酸素治療装置のトラブルシミュレーション：1回 血液浄化療法に関するセミナー：2回 保育器の取り扱い説明：1回 除細動器の取り扱い説明：1回 点検後の研修 放射線発生装置における定期点検後の装置状態説明：4回 ¹⁹⁷ Ir線源交換・払出、線源校正：3回 診療用放射線照射装置における定期点検後の装置状態説明：2回	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： (1) シリンジポンプ、輸液ポンプ及び経腸栄養ポンプは中央管理による日常点検及び定期点検 (2) 人工呼吸器の始業点検、使用中点検、終業点検及びメーカーによる定期点検 (3) 血液浄化装置の始業点検及びメーカーによる定期点検 (4) 除細動器は点検器具を用いた臨床工学技士による定期点検 (5) 人工心肺装置及び補助循環装置は始業点検及びメーカーによる定期点検 (6) 保育器の日常点検、定期的な点検 (7) 診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置、X線撮影装置、MRI装置、核医学撮影装置の始業・終業点検及び定期点検、装置の品質維持管理 (8) 業者による定期保守点検 ① 診療用高エネルギー放射線発生装置 ② 診療用放射線照射装置 ③ 造影剤注入装置 (9) 業者に対する機器故障時のオンコール	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 情報収集の方法 ① 医療機器に関する情報提供のホームページを活用 ② 医薬品医療機器情報配信サービス（PMDAメディナビ）の登録 ③ メーカー主催のメンテナンス講習会への参加 ④ 医療機器に関連する学会への参加 ⑤ メーカー担当者からの報告及び情報の収集 ⑥ 放射線医療機器に関する情報提供のホームページを活用 (2) 情報の周知 メーカー担当者から関連部署への通知の依頼 研修時の定期報告と確認	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者は医療安全管理部長となっている。医療安全管理責任者を委員長とするリスクマネージャー連絡会議には、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者が出席しており、管理状況が把握されている。また、医療安全管理責任者は、病院長を委員長とする医療安全管理委員会にリスクマネージャー連絡会議の内容を報告している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(7名)・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>「リスクマネージャー全体会議資料」に医薬品の安全性に関する注意喚起情報（安全性速報、医薬品・医療機器等安全性情報、医薬品適正使用に関する通知、安全対策に関する通知）、その他必要な通知を追加添付し全部署に回覧する。また、閲覧後に閲覧者のサインを求める。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認等の医薬品の処方せんを扱う場合、薬学的知見に基づき疑義照会を行い、調剤した場合、その旨を疑義照会データベースに記録する。医薬品管理責任者より指名された薬剤師等は、定期的にデータベースより未承認等の医薬品の使用状況を確認し、必要なものは医薬品管理責任者に報告する。</p> <p>・担当者の指名の有無(有・無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：診療記録監査において、患者に説明を行った場合の診療録の記載状況、説明書・同意書の保存状況を確認し、その結果を診療科へ通知するとともに、各種委員会等（診療情報管理委員会、病院運営委</p>	

員会、医長連絡会)において報告している。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

診療記録監査は、診療情報管理委員会の委員が毎月実施し、その結果を各診療科へフィードバックしている。監査項目は、日々の記載状況、患者・家族への説明状況、退院時要約や手術記録の記載内容等 10 項目を実施している。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有・無

・所属職員：専従（2）名、専任（2）名、兼任（6）名

うち医師：専従（0）名、専任（1）名、兼任（5）名

うち薬剤師：専従（0）名、専任（1）名、兼任（0）名

うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（1）名

・その他に事務職員：専従（2）名、専任（0）名、兼任（1）名

（注）報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること

専任医師 1 名、専任薬剤師 1 名、専従看護師 2 名を配置済み。

平成 30 年 4 月から専任医師 1 名及び専任薬剤師 1 名を増員し、平成 32 年 4 月から全て専従とする予定である。

・活動の主な内容：

（1）医療の質の向上及び安全に関する事項

（2）インシデントレポート等に関する調査・分析

（3）医療事故防止のための改善策の策定・実施及び周知

（4）医療調査委員会開催の要否

（5）院内各部署における医療安全管理状況の点検

（6）医療の安全性に係る教育および研修

（7）医療の安全に関する最新情報及び警鐘事例の職員への周知

（8）医療事故防止対策マニュアルの見直し

（9）医療安全に関する院外への情報提供

（10）その他医療安全に関する事項

医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容：

予定手術時間を 2 時間以上超えたもの及び出血量 3000ml 以上のもののデータを抽出し、状況を把握している。

従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例：

平時から院内における受講状況を確認し、会議において受講状況の報告を行っている。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無 (有 無)
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有 無)
- ・ 活動の主な内容：
 - (1) 申請受理
 - (2) 高難度新規医療技術等評価委員会への付議
 - (3) 申請された技術等の提供の適否等の決定
 - (4) 結果通知
 - (5) 定期監査 (遵守状況の確認)
 - (6) 定期報告 (遵守状況を管理者に報告)
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 無)
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (有 無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (有 無)
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有 無)
- ・ 活動の主な内容：
 - (1) 申請受理
 - (2) 高難度新規医療技術等評価委員会への付議
 - (3) 申請された技術等の提供の適否等の決定
 - (4) 結果通知
 - (5) 定期監査 (遵守状況の確認)
 - (6) 定期報告 (遵守状況を管理者に報告)
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 無)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 無)

⑨ 監査委員会の設置状況	有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 0 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>（１）医療安全管理責任者、医療安全管理部、医療に係る安全管理のための委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務の状況について病院長から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を行う。</p> <p>（２）必要に応じ、学長又は病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を具申する。</p> <p>（３）前２号に掲げる業務について、その結果を公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 公表の方法：本学ホームページに掲載している。</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
子野日 政昭	市立旭川病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	(注) 1.
黒川 伸一	旭川大学		法律に関する識見を有する者	無	(注) 1.
浅川 哲弥	北海道教育大学旭川校		医療を受ける者 その他の医療従事者以外の者	無	(注) 2.

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 238 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 123 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - (1) 医療法に基づく医療事故に該当又は非該当に関すること。
 - (2) 異状死に該当又は非該当に関すること。
 - (3) 家族等への対応に関すること。
 - (4) 医療法に基づく医療事故の公的機関への報告に関すること。
 - (5) 医療法に基づく医療事故の公表に関すること。
 - (6) その他医療法に基づく医療事故に関すること。
 - (7) 医療法に基づく医療事故発生の原因調査に関すること。
 - (8) 医療法に基づく医療事故発生の原因究明等に関すること。
 - (9) 医療法に基づく医療事故調査報告書（案）の作成に関すること。
 - (10) 医療法に基づく医療事故の再発防止策の策定に関すること。

⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名： ） **・無**）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名： ） **・無**）
- ・技術的助言の実施状況
平成 29 年 8 月 17 日付け国立大学附属病院長会議常置委員長通知を根拠に平成 29 年度に実施予定。

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
患者・家族等からの相談及び苦情等に適切に応じるため医療相談窓口を設置している。
相談及び苦情等のうち、医療の安全に係る内容のものは、本院の安全対策等の見直しにも活用している。医療相談窓口の責任者は、医療安全管理部に所属しており、情報共有を図っている。
また、相談したことにより患者・家族等に不利益が発生しないように配慮している。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無 (有 ・ 無)
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (有 ・ 無)

⑭ 職員研修の実施状況

・ 研修の実施状況

従前から事故防止啓発部会主催で実施している「医療安全に関する研修」の内容において、必要な内容を網羅している。

研修の主な内容：

初任者研修（新規採用研修医・看護師）、新規採用医師・中途採用者の教育（看護師、事務職員、コ
 ・メディカル）、Web 講演会、ME機器セミナー（輸液ポンプ・シリンジポンプ・カンガルーポンプ
 : 全2回）、インスリン療法研修会、外部講師による講演会、各部門における安全の取り組み報告会
 &ポスターセッション（2日間：内容別）、事例検討会、eラーニングで学ぶ医療安全など

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・ 研修の実施状況

平成 29 年度から実施される、公益財団法人日本医療機能評価機構主催または病院管理研修協会主催による研修に、今後、参加させる予定である。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有 無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構 2015年6月5日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有 無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 ○ (発信方法) 大学概要、病院ホームページ、入院のしおり、外来診療のご案内、院内掲示にて発信 ○ (概要) 基本理念、目標、医療体制、評価指標、先進医療	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有 無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ○ チーム医療を推進し、複数の診療科や中央診療施設等が連携し、全人的医療の提供を実施 ○ 患者の病状に応じ充実した医療を提供できるよう、複数診療科における症例検討会の実施（手術、化学療法、放射線治療等） ○ 救急科、総合診療部を受診した複数診療科領域の患者に対し、専門領域の臓器別診療科と連携 ○ 医療安全等に関し、医療の質の向上等のため、組織横断的に担う実働的な組織として医療安全管理部及び各種委員会を設置 ○ 専任リスクマネージャーの配置等、病院全体で連携 ○ 院内感染対策に関し、感染制御部及び各種委員会を設置	

(様式第 8)

旭医大第 1017 号
平成 29 年 10 月 4 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 吉田 晃敏 (印)

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

平成 29 年度から実施される、公益財団法人日本医療機能評価機構主催または病院管理研修協会主催による研修に、今後、参加させる予定である。

2. 医療安全管理部門の人員体制

- ・所属職員：専従（2）名、専任（2）名、兼任（6）名
うち医師：専従（0）名、専任（1）名、兼任（5）名
うち薬剤師：専従（0）名、専任（1）名、兼任（0）名
うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（1）名
- ・他に事務職員：専従（2）名、専任（0）名、兼任（1）名

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

専任医師 1 名、専任薬剤師 1 名、専従看護師 2 名を配置済み。
平成 30 年 4 月から専任医師 1 名及び専任薬剤師 1 名を増員し、平成 32 年 4 月から全て専従とする予定である。